

# REVOLABS Executive Elite™ ワイヤレスマイクシステム



## 取扱説明書

Revolabs Executive Elite取扱説明書  
Aug 2021 (Rev 2.2.7)

# 目次

はじめに .....	5
用語解説 .....	6
同梱物 .....	7
設置 .....	10
ベースステーション .....	10
ラックマウント時の注意 .....	11
リモートアンテナ .....	12
リモートアンテナとベースステーションの接続 .....	14
システムのセットアップ .....	15
Revolabs Executive Eliteの音声接続 .....	15
Executive Eliteベースステーションの同期 .....	16
フロントパネルユーザーインターフェース .....	17
ホーム画面 .....	19
フロントパネルのメニューツリー .....	22
Main Menu（メインメニュー） .....	22
Web UI .....	27
Web UIへの接続 .....	27
「Login」ページ .....	28
初回使用時の設定 .....	29
「Monitor」ページ .....	30
「Microphone Audio」（マイク音声）ページ .....	33
Audio Management（オーディオ管理） .....	35
System Management（システム管理） .....	39
シリアルコントロールプロセッサ（ルームコントロールインターフェース） .....	50
ファームウェアの更新 .....	58
マイク .....	59
Eliteウェアラブルワイヤレスマイク「Elite MIC-WR」 .....	60
Elite無指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-OM」 .....	62
Elite指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-DR」 .....	64
Eliteグースネックマイク「Elite MIC-GN6」および「Elite MIC-GN12」 .....	66
ダイナミックマイク用Revolabs Elite XLRアダプター「Elite MIC-XLR」 .....	68
Revolabs EliteTA4アダプター（ミニXLRアダプター）「Elite MIC-TA4」（ラベルマイクおよびイヤークセットマイク用） .....	70
バッテリー .....	72
リモートアンテナおよびベースステーションとワイヤレスマイクのペアリング .....	72
LEDパターン .....	73
ミュートグループ .....	74
GPLライセンスのソフトウェア .....	77

トラブルシューティング .....	79
フロントパネルUSB経由のWeb UIアクセス .....	79
アンテナアイコンの点滅.....	79
テクニカルサポート .....	79
技術仕様.....	80
マイクの極性パターン.....	81
索引.....	82

※製品には安全上のご注意が同梱されています。ご使用前に必ず安全上のご注意をお読みください。

※最適なパフォーマンスを得るには、2～4年ごとにマイクの電池を交換してください。リチウムイオン電池の平均寿命は約2～3年（300～500回の充電サイクル）です。

バッテリーが損傷したり、サイズが膨らんだり、充電中に熱くなったりした場合は、すぐに交換してください。

バッテリーを6か月以上使用していない場合は、使用前に適切に充電されているかどうかを確認し、充電されなくなったバッテリー、充電中に熱くなったバッテリー、またはサイズが膨らんだバッテリーを交換してください。

## はじめに

Revolabs Executive Eliteワイヤレスマイクシステムのお買い上げありがとうございます。この製品では、最新の技術を利用することで、広帯域の音声に対応するほか、ケーブルに縛られることなく、お客様の用途に合わせて明瞭な音声を取り込むことができます。

本書をよくお読みいただき、その指示に従ってExecutive Eliteワイヤレスマイクシステムを設置、使用してください。

### ラジオおよびテレビへの干渉

本機器は、FCC規則第15部に基づいてテストされ、クラスBデジタル機器に関する基準に適合することが確認されています。この基準は、居住空間に機器を設置する場合に、有害な電波干渉を防止する適切な保護を提供することを目的としています。本機器は、無線周波エネルギーを生成、使用し、また、放射することができます。ユーザーガイドに従わずに本機器を設置および使用した場合、無線通信に有害な電波干渉をもたらす可能性があります。ただし、電波干渉を引き起こさないという保証のできる設置方法はありません。本機器がラジオやテレビの受信に有害な電波干渉を引き起こしているかどうかは、本機器の電源を入れたり切ったりすることで確認できます。本機器が電波干渉を引き起こしている場合、干渉を回避するために以下の方法を1つ以上お試しください。

- 受信アンテナの向きや配置を変える。
- 機器とレシーバー間の距離を広げる。
- 機器とレシーバーをそれぞれ回路が異なるコンセントに接続する。
- 販売店または経験豊富なラジオ/テレビの技術者に相談する。

### 他の電波を放出する機器との干渉

Revolabsデジタルワイヤレスマイクシステムは、PHS、コードレスマイク、ヘッドセットマイクなど1.9GHz帯の電波を使用する無線機器と干渉する恐れがあります。1.9GHz帯の電波が存在する空間ではRevolabsデジタルワイヤレスマイクの本래の性能を発揮できない可能性があります。使用する前にならず電波環境を確認してください。他の周波数帯を使用する無線機器とは干渉しませんので、2.4GHz/5GHzのWiFiや800MHzのワイヤレスマイクとは同時使用が可能です。

### 医療機関での使用

医療機関で使用している医療機器によってはRevolabsデジタルワイヤレスシステムで使用している1.9GHz帯DECTの電波と干渉し、誤動作する可能性のある医療機器があります。Revolabsデジタルワイヤレスマイクを使用する前に医療機器メーカーに相談し、1.9GHz帯DECT電波を使用しても問題がないことを確認してください。また補聴器との干渉を起こす可能性があります。もし干渉が発生した場合は、補聴器の製造者に相談してください。

## 用語解説

**AES 256:** キー長256ビットのAdvanced Encryption Standard。Executive Eliteで採用しているCode Cypherにより、無線信号およびベースステーションとリモートアンテナ間の音声通信が暗号化されます。

**カーディオイドマイク:** カーディオイドマイク（指向性マイク）には指向性があり、マイクの前方からは音声を拾いますが、後方からはほとんど音声を拾いません。心臓の形をした集音パターンを示します。

**チャンネル:** Executive Eliteは、1台のベースステーションで4本または8本の無線マイクに対応します。ペアリングする際マイクごとにチャンネル番号を割り当てるので、簡単に使用できます。

**チャージャーベース:** Eliteマイクを保管するための充電ステーションです。スタンドの磁石によってマイクが保持され、チャージャーベースが電源に接続されている場合は接点から充電します。電源に接続されたチャージャーベースにマイクを置くとマイクの電源が切れ、マイクに適切な充電用バッテリーが搭載されている場合は充電を開始します。

**DECT:** Digital Enhanced Cordless Communication。時分割多元接続（TDMA）技術を利用する音声アプリケーションやデータアプリケーション向けの無線技術。

**Executive Eliteベースステーション:** Executive Eliteシステムの主処理装置。ベースステーションはマイクから届く暗号化された音声信号を、非暗号化のアナログ音声またはデジタル音声に変換し、音声を制御します。Executive Eliteシステムの管理はすべてベースステーションを介して行われます。

**ファームウェア:** すべてのコンポーネントでこのソフトウェアが動作します（機能の実現に必要なソフトウェア）。

**マイクのリンク:** 事前にExecutive Eliteベースステーションとペアリングされているマイクは、電源を入れたときやチャージャーベースから取り外したときに同じベースステーションへのリンクを試みます。マイクのリンクが完了すると、Executive Eliteベースステーションとの通信が有効になります。マイクとExecutive Eliteリモートアンテナが通信に使用する周波数とタイムスロットは、両者の間で動的に決定されます。

**無指向性マイク:** あらゆる方向（360度）から音声を集めるマイク。

**指向性マイク:** 主に単一方向から音声を集めるマイク。

**マイクのペアリング:** マイクとExecutive Eliteベースステーションの間の通信をセットアップすること。

**マイクのリンク:** マイクをチャージャーベースに設置するとマイクとベースステーションの音声通信が切れますがペアリングは切れません。マイクをチャージャーベースから取り外すとマイクは再びベースステーションの同じチャンネルとリンクし、音声の通信を再開します。

**リモートアンテナ:** Executive Eliteシステムの外部送受信デバイス。リモートアンテナはCAT6のケーブル接続を使用して、Executive Eliteベースステーションにポイントトゥポイント接続されます。

**ユーザーインターフェース (UI):** ユーザーがExecutive Eliteシステムの管理に使用するインタラクティブな画面。Executive Eliteには、Web UI、フロントパネルUIなど、複数のユーザーインターフェースが用意されています。

## 同梱物

お買い求めのRevolabs Executive Eliteシステムの各パッケージには下記の内容が含まれます。

- ベースステーション
- チャージャーベース
- チャージャーベース用ACアダプター
- ベースステーション用電源ケーブル
- アンテナ
- アンテナプレート
- USBケーブル（USB A type-Mini USB B type）
- CAT6ケーブル（UTP）
- ミニユーロブロック（緑）8個
- ミニユーロブロック（黒）8個
- ミニユーロブロック（グレー）1個
- フェライトコア2個

また、Revolabs Eliteワイヤレスマイクを1台以上お買い上げいただいている場合、マイクのパッケージには下記の内容が含まれます。

- Revolabs Eliteワイヤレスマイク（各種スタイル）
- ストラップおよび耳かけ式スピーカーエレメント（ウェアラブルマイクのみ）
- バッテリー

Executive Eliteベースステーションは、マイクから受信する音声をアナログ音声やAVB上のデジタル音声で出力するために必要な機能を搭載し、各種管理インターフェース（フロントパネル、Web UI、ルームコントロールシステムUI）を備えています。

リモートアンテナには、マイクと音声信号を送受信するために必要なすべてのコンポーネントが含まれており、必要なダイバーシティアンテナも搭載しています。リモートアンテナはシステム間で電波の同期状態を制御するとともに、無線周波数をスキャンして、その場所でのDECT電波状況を解析します。リモートアンテナは、CAT6ケーブルを使用してネットワークスイッチやハブなどを介さず、直接Eliteベースステーションと接続し通信します。

チャージャーベースは、使用していないEliteワイヤレスマイクを保管し、充電します。

Revolabs Eliteワイヤレスマイクシステムは、一般的な他の音声機器と連携するように設計されています。通常、他の音声機器は次のような目的で使用されます。

- 音声ミキシング
- AEC（アコースティックエコーキャンセラー）
- フィードバック除去
- レベルコントロール
- イコライズ
- ノイズキャンセレーション

Revolabs Eliteシステムは、上記の機能も一部搭載していますが、設定を変更する場合やニーズに合わせて音声に手を加える場合は、外部の音声制御システムをお使いください。音声最適化に使用するシステムを1つに集約すると、最適な音声品質を得やすくなります。

Revolabs Eliteシステムは、下記の機能を実現することにより音声の取り込み/再生を最適化しています。

- 全使用マイクからの継続的な音声受信
- ルームノイズの最小化
- ミュートコントロール
- 無線暗号化
- 自動チャンネル選択
- 音声の双方向通信



Revolabsのワイヤレスマイクおよびトランシーバーは、リモートアンテナから信号（音声やコマンド）を受信すると同時に、アンテナおよびベースステーションにも音声を送信します。Executive Eliteでは、次のようなマイクとマイクアダプターをご利用いただけます。

- 無指向性テーブルトップマイク
- 指向性テーブルトップマイク
- 12インチグースネックマイク（約30cm）
- 6インチグースネックマイク（約15cm）
- ウェアラブルマイク
- TA4マイクアダプター
- XLRマイクアダプター

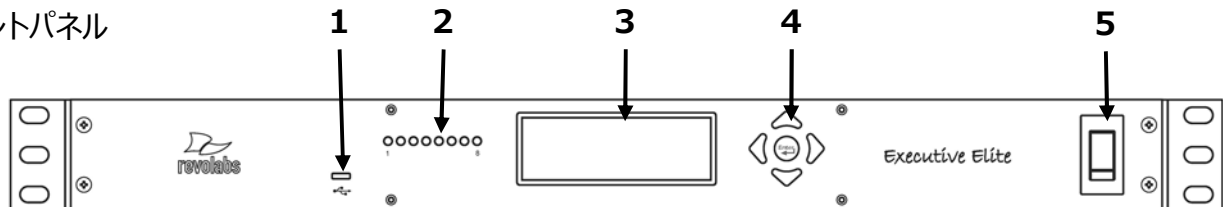
音声を伝達するには、マイクとそのレシーバーやアンテナをペアリングする必要があります（詳細は後述します）。

# 設置

## ベースステーション

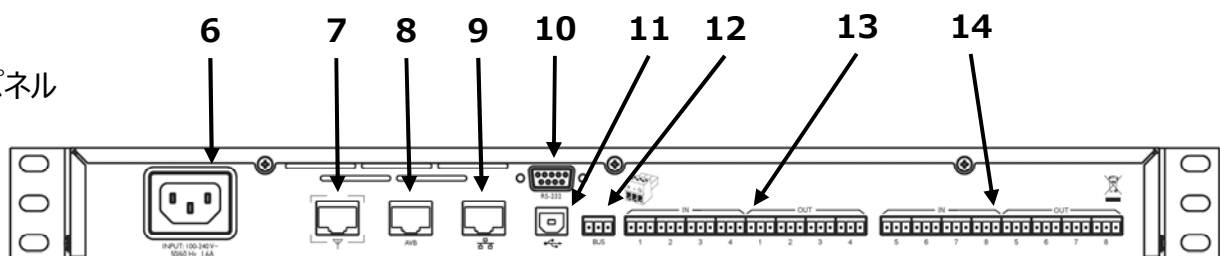
Revolabs Executive Eliteベースステーションには、ワイヤレスマイクの音声出力と、マイクシステムを管理する管理インターフェースが搭載されています。以下に、フロントパネルおよびリアパネルを示します。

フロントパネル



1. ローカルWebユーザーインターフェースへのUSB Webアクセス用ポート
2. マイクのステータスを示すLED。ペアリングおよびミュートのステータスを表示（Executive Elite 8はLED8個、Executive Elite 4はLED4個）
3. フロントパネルLCD。システム情報、設定仮面を表示
4. ナビゲーションボタン。フロントパネルLCDディスプレイの内容を操作
5. ON/OFFスイッチ

リアパネル

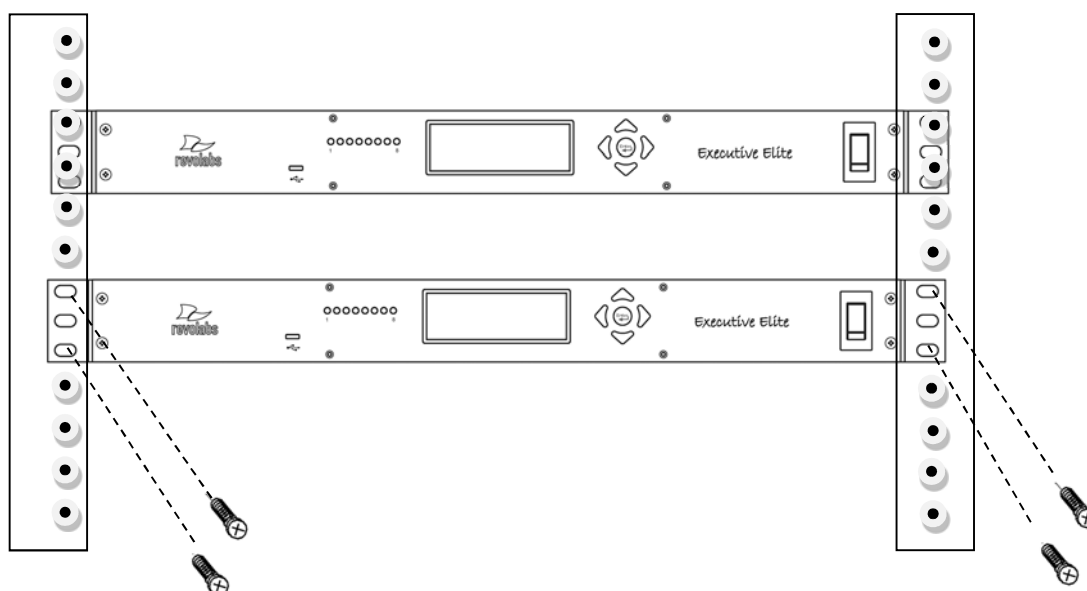


6. 電源ソケット（100V～240V、50/60Hz）
7. PoE対応リモートアンテナコネクタ
8. AVBネットワークコネクタ
9. コントロール用ネットワークコネクタ
10. ルームコントロールインターフェース用シリアルポート
11. USBコネクタ（未使用）
12. ミニユーロブロックコネクタ（グレー）：Executive HD互換のシンクバス
13. ミニユーロブロックコネクタ：アナログ音声入力（黒）および音声出力（緑）、マイクチャンネル1～4
14. ミニユーロブロックコネクタ：アナログ音声入力（黒）および音声出力（緑）、マイクチャンネル5～8（Executive Elite 8マイクシステムのみ）

Revolabs Executive Eliteベースステーションは付属ラックマウント金具を用いた標準19インチEIAラックへの設置に対応しています。ネジは同梱されていません。

## ラックマウント時の注意

この機器が動作保証する室温は1~40℃です。この機器を複数台または他の機器と一緒にEIA標準の19インチラックに密接させてマウントする場合、各機器からの熱でラック内の温度が上昇し、十分な性能を発揮できないことがあります。この機器に熱がこもらないように、複数のベースステーションをラックに設置する際は、1Uのブランクを空けるようにしてください。またパワーアンプなどの発熱しやすい機器と一緒にマウントする場合は、他の機器との間を1U以上空け、通風パネルを取り付けたり、開放したりして、十分な通気を確保してください。ラックの背面は開放し、ラックを壁や天井から10cm以上離し、十分な通気を確保してください。ラック背面を開放できない場合は、ラックに市販のファンキットなどの強制換気用装置を設置してください。ファンキットを取り付けた場合は、ラックの背面を閉じた方が排熱効果が大きくなることもあります。詳しくはラックおよびファンキットの取扱説明書をご参照ください。

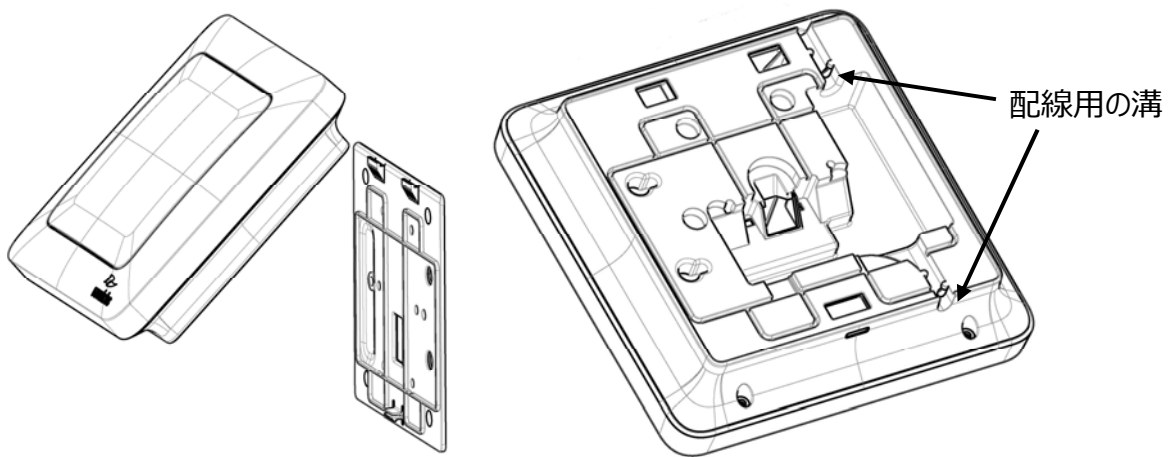


## リモートアンテナ

リモートアンテナは、取付板およびアンテナハウジングの2つの部品で構成されます。設置方法はワイヤレスアクセスポイントと同様で、天井や壁の高い位置で室内に向けて設置するのが最適です。また、必ずマイクから直接目視できる場所に設置してください。天袋などへの隠蔽設置ではシステムの性能を十分に発揮することができず、トラブルの原因となります。また、アンテナに塗装を行うことも同様の結果を招く可能性があります。

1台のリモートアンテナで1台のベースステーションをサポートします。例えば、8本を超えるマイクを使用するシステムで複数のベースステーションが部屋に設置されている場合は、その部屋にベースステーション台数分のリモートアンテナを設置します。リモートアンテナ同士は、30cm以上の間隔を空けて設置してください。

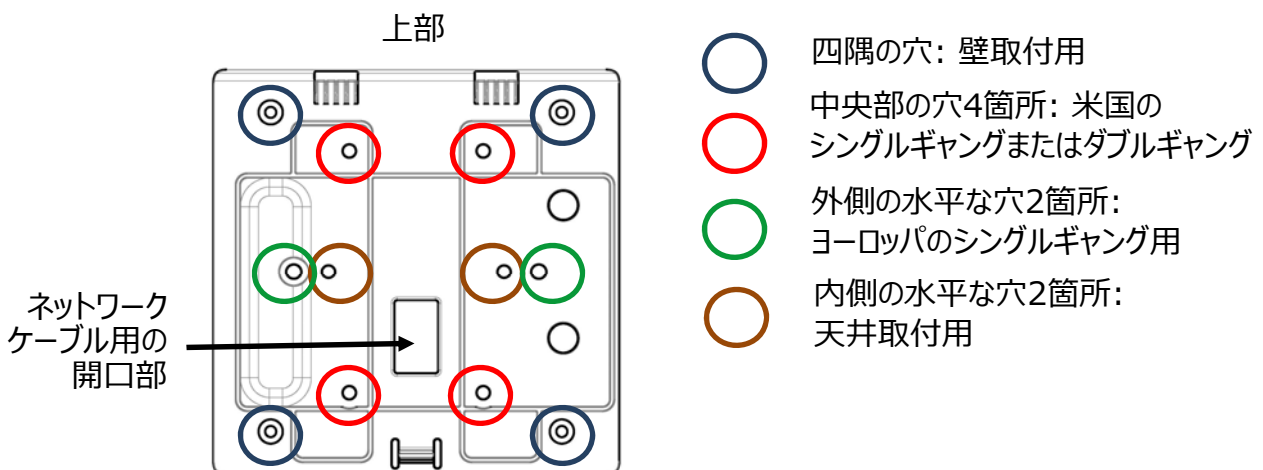
リモートアンテナとマイクの間で無線信号の送受信が最適化されるように、リモートアンテナにはその内部に複数のアンテナを搭載しています。



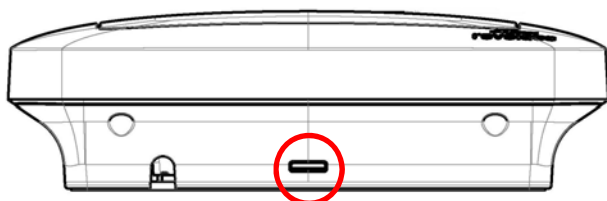
リモートアンテナの取付板には、様々な環境にアンテナを設置できるよう工夫されています。取り付け方法については下の図を参照してください。

取付板の取付方法に関わらず、ネジは締めすぎないようにしてください。

壁に設置した場合、またはシングルギャングボックスやダブルギャングボックスに設置する場合は、ネットワークケーブル用の開口部を通してケーブルを配線できます。また、配線用の溝を使用すると、リモートアンテナの上または下からケーブルが出るように配線することもできます。

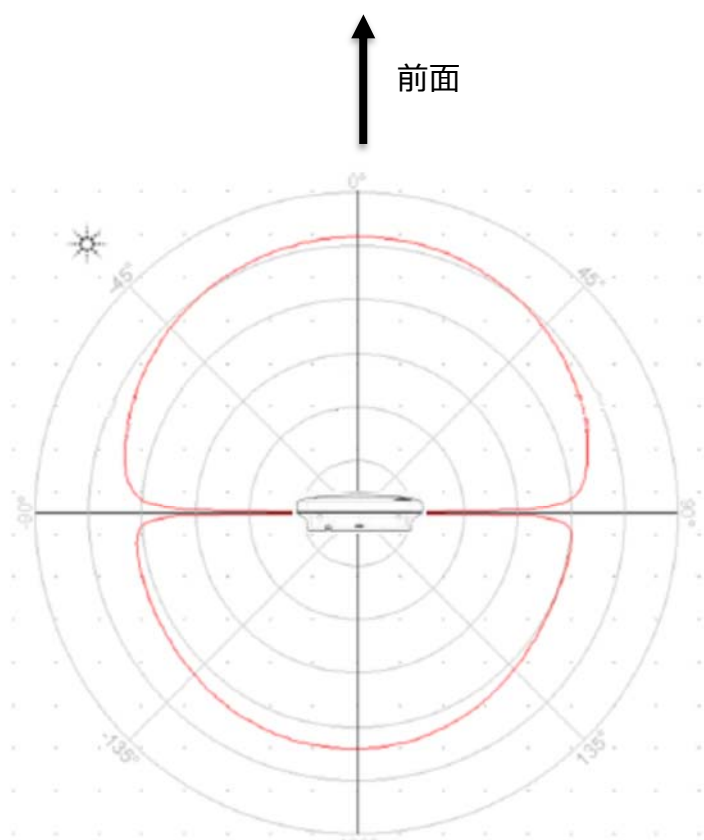


取付板を壁に取り付け、リモートアンテナにネットワークケーブルを接続して正しく配線します。次にリモートアンテナハウジングを上からスライドさせて2箇所のフックにはめ込み、留め金がカチッと鳴るまで底面を壁に設置した取付板に押し付けて、ハウジングを取付板に取り付けます。



リモートアンテナのハウジングを壁の取付板から取り外すには、スリット部にドライバーを下から差し込み、アンテナが留め金から外れるまで留め金を押して、アンテナをゆっくりと前に引き出します。これで、ハウジングを壁の取付板から取り外せます。

無線信号のポーラパターンはリモートアンテナの水平方向で無効となります。前面方向で電波強度は最大となり、後面では若干強度が落ちます。



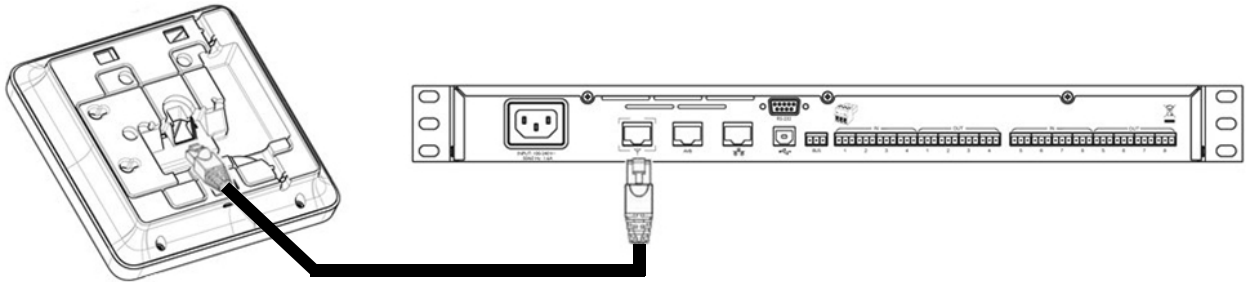
横方向から見たリモートアンテナのポーラパターン

## リモートアンテナとベースステーションの接続

CAT6のケーブルで、リモートアンテナをベースステーションのアンテナ出力に接続します。

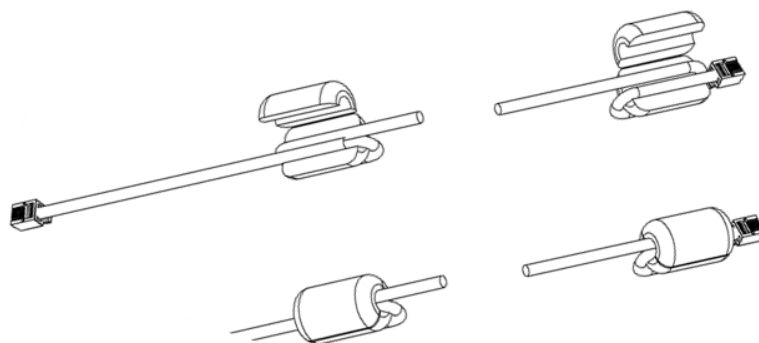
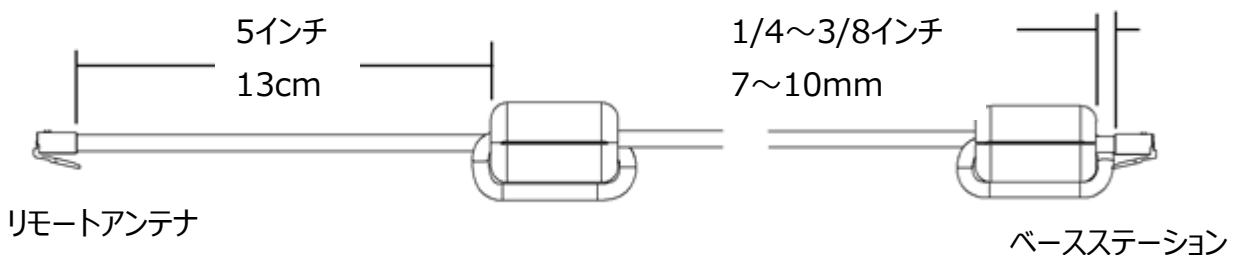
**注:** このとき、それぞれの機器を必ず直接接続してください。ネットワークスイッチやハブを介して接続するとシステムが正確に動作しません。

ベースステーションのアンテナ接続ポートは、リモートアンテナへの電源供給に必要なPoE（Power over Ethernet）に対応しています。



ネットワークケーブルを接続する前に、ケーブルの両端にフェライトコアを取り付け、電磁干渉を最小限に抑える必要があります。1つめのフェライトコアは、ベースステーション接続側のケーブル端から7～10mmの位置に取り付けます。2つめのフェライトコアは、アンテナ接続側のケーブル端から13cmの位置に取り付けます。

**注:** アンテナでは、アンテナケース内で取付板の真下にフェライトコアがくるようにスペースが確保されています。取付板にあるネットワークケーブル用の開口部を通してケーブルを配線する場合は、ケーブルを通した後、フェライトコアを取り付ける必要があります。この手順を間違えると、ケーブルが開口部を通らなくなります。



## システムのセットアップ

リモートアンテナとベースステーションをネットワークケーブルで接続し、フロントパネルの電源スイッチをオンにすると、電源が入ります。ユニットの動作準備が整うまで、フロントパネルディスプレイに情報提供用のメッセージが表示されます。システムが正常に動作を開始すると、ディスプレイに「VU」画面が表示され、アンテナのアイコンが点滅から点灯に変わります。

その他のシステム設定手順については、このマニュアルの各種ユーザーインターフェースを説明する項目を参照してください。

## Revolabs Executive Eliteの音声接続

Executive Eliteベースステーションは、3つの方法でマイクから音声信号をシグナルプロセッサなどに送信し、バックチャンネル音声をマイクに届けています。

3つの音声出力経路はどれも常に有効ですが、バックチャンネル音声で有効にできる経路は1つだけです。どの経路でマイクに音声を送信するかは、ユーザーインターフェースを使用して選択します。

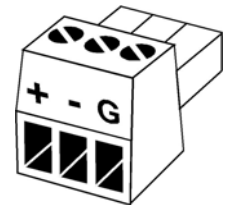
### アナログ音声

8chモデルのExecutive Eliteベースステーションには、リアパネルに3.5mmミニユーロブロックでの音声入力が8系統、3.5mmミニユーロブロックでの音声出力が8系統（4chモデルのユニットのコネクター数は音声入力4系統および音声出力4系統）搭載され、各チャンネルの音声信号にアクセスできるようになっています。

パッケージ付属のミニユーロブロックコネクターを使用すれば、簡単に配線できます。3つの端子は左からホット（+）、コールド（-）、グラウンド（G）に対応しています。

ベースステーションのオーディオIN/OUTへ接続する

1. コネクター上面のネジを緩めて、先に端子を開きます。
2. 3本の先端部分の皮膜を剥いた信号線を、コネクターの適切な箇所に挿入します（3線、もしくは2線+シールド）。
3. ネジを締めてケーブルを固定します。
4. ベースステーションの背面で、接続したい箇所の入力/出力ポートのピンにコネクターを押しこみ、しっかりと固定します。



マイク出力コネクターは、シグナルプロセッサ（ミキサー、DSPなど）のラインレベル（0dBu）入力コネクターに接続してください。

バックチャンネル音声にアナログ音声入力を使用する場合は、ベースステーションの音声入力コネクター（こちらも0dBu）に音声の出力を接続してください。

## AVB音声

Executive Eliteは、アナログ音声以外にデジタル音声の入出力もサポートしています。ベースステーションの背面にあるAVB接続をAVB対応ネットワークに接続すると、各マイクの出力音声データストリームを出力したり、各マイクの入力音声データストリームを使用したりできます。AVBネットワークのセットアップ方法については、お使いのAVBネットワーク管理ソフトウェアを参照してください。

## Executive Eliteベースステーションの同期

複数のRevolabs Executive Eliteベースステーションを同じ場所で使用する場合は、RF空間の使用状況を最適化し、システムのパフォーマンスを最大にするために、システムを同期させる必要があります。

Executive Eliteシステムは、Sync Busによる同期、AVBネットワークによる同期という2通りの方法でシステムを同期します。

### マイク密集度と無線周波数インターフェース

同じ空間で同時使用可能なマイクの本数を増やすためには、Executive Eliteシステムを同期させてください。同期していないシステムが同じ空間に存在すると、Executive Elite同士で干渉してしまうため、無線電波のロスや音飛びの原因になります。このため、互いに近接するすべてのExecutive Eliteシステムを同期し、問題となりうる音声マイクの数を制限しておくことが重要となります。近接していないシステム同士を同期することにデメリットはありません。同期するとシステムの内部クロックには影響しますが、マイクのチャンネル選択に影響はないため、重大な問題が発生しないように、可能であれば極力システムを同期させるようにしてください。

どの音声品質を選択しているか、マイクへのバックチャンネル音声の有効か無効かによって、同じ場所で使用可能なマイクの最大本数が変わります。また、付近にある別のワイヤレストラフィックと、そのトラフィックの同期状況にも左右されます。マイクとベースステーションが通信できる範囲内で適切な無線出力強度を設定することはとても重要です。適切に設定することで、付近との干渉を減らすことができます。無線出力強度のパラメーターの設定方法については、ユーザーインターフェースの項を参照してください。

### 同期方法の選択

同期方法は、Web UIまたはフロントパネルLCDから選択できます。

シンクモード（同期方法）は、フロントパネルの「System Settings」内の「System Clock」サブメニューからSync Busを選択します。シンクモードを選択すると、クロックモードを「Internal」と「External」のどちらにするかを選択するよう求められます。シンクモードの種類に関わらず、「Internal」として指定できるデバイスは1つのみで、このデバイスが同期システム全体のクロックマスターとなります。その他のデバイスはすべて「External」と設定し、「Internal」デバイスのクロックスレーブとなるように設定する必要があります。

シンクモードはWeb UIの「System Configuration」ページで設定できます。ページの左下の表にドロップダウンメニューが2つあります。1つはシンクモード用、もう1つはシステムのクロックモードを「Internal」

（Executive HDの「Primary」）または「External」（HDの「Secondary」）に設定するためのものです。



## シンクバス

シンクバスを使用することで、複数のExecutive Eliteベースステーションを接続し、一つのシステムとしてクロックを管理できるようになります。

また、シンクバスにより、Executive Eliteベースステーションを、付近にあるExecutive HDレシーバーと同期させることもできます。Executive HD製品のシンクバスはグループミュートコントロールでも管理されますが、Executive Eliteではこの機能の処理方法が異なります。Executive HDシステムと同期接続した場合、シンクバスからは同期データのみが供給されます。Executive EliteシステムとExecutive HDシステム間のミュートデータは供給されませんが、Executive HDシステム間で管理されるミュートグループは、このバスで管理できます。

シンクバスケーブルは、標準的な3.5mmミニユーロブロックコネクタで、Executive Eliteベースステーションにある灰色のミニユーロブロックバスコネクタに接続します。使用するケーブルは26AWG以上のシールドケーブルです。「External」ユニットと「Internal」ユニットの距離は、最大90m未満とする必要があります。

BUSコネクタの端子はデジチェーン接続またはターミナルブロックでの分岐により、平行接続とします。ユーロブロックコネクタのピンサインは左から順番に以下のとおりとなっています。

### S. シンク

- Executive Eliteでは未使用（Executive HDではマスターミュート）

### G. グランド（シールドもグラウンドに接続してください）



シンクバスを使用してExecutive EliteシステムとExecutive HDを同期させるには、Executive HDの1台をインターナルに設定し、クロックマスターにする必要があります。Executive Eliteのベースステーションはエクスターナルクロックに設定してください。

## AVBシンク

すべてのExecutive Eliteベースステーションが同じAVBネットワークに接続されている場合は、このAVBネットワークを使用してシステムを互いに同期できます。シンクバスを別途ケーブルで接続する必要がなくなるため、Executive Eliteシステムを設置しやすくなります。ただし、Executive HDシステムはAVBをサポートしていないため、Executive HDシステムとExecutive Eliteシステムが混在する環境ではAVBによる同期はできません。

AVBシンクのセットアップはAVB対応スイッチを介して行います。Web UIまたはフロントパネルでExecutive EliteシンクモードをAVBに設定してから、「Clock Mode」に「Auto」を選択します。EliteシステムネットワークのセットアップはAVBネットワーク設定ソフトウェアで行います。この際、1つ以上のシステムを「Talker（トーカー）」とし、それ以外をトーカーシステムに対する「Listener（リスナー）」とします。これにより、連鎖的な通信ができるようになります。つまり、1台のEliteシステムを、チェーン内のシステムに対してはリスナーとして設定し、チェーンの下流のシステムに対してはトーカーとして設定します。

## フロントパネルユーザーインターフェース

Executive Eliteシステムの管理に使用できる3つのインターフェースのうちの1つとして、フロントパネルユーザーインターフェースがあります。ほかには、Web UIおよびCLI（ルームコントロール）といったインターフェースがありますが、これらについては後述します。

フロントパネルには次の4つの領域があります。

1. On/Offスイッチ
2. 4個または8個のLED（Executive Eliteベースステーションのバージョンによる）
3. グラフィックLCDディスプレイ
4. 5ボタン搭載ナビゲーションキーパッド

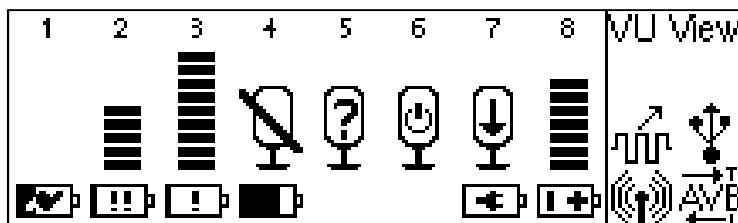
Executive Eliteベースステーションおよび接続されたリモートアンテナは電源スイッチにより、電源のON/OFFを切り替えます。

フロントパネルのLEDは、マイクの現在の状態を表します。LEDが消灯している場合は、このチャンネルにマイクがペアリングされていない、ペアリングされたマイクがチャージャーベースに置かれている、通信圏外である、または電源が切れていることを示しています。緑色で点滅している場合、マイクのミュートは解除され音声通信ができる状態です。赤色に2回点滅している場合、マイクは有効ですがミュートされています。赤色のLEDが1回点滅し、点滅速度が速い場合はマイクのファームウェア更新中です。赤色のLEDが点灯している場合、そのチャンネルでマイクのペアリングが行われている最中です。

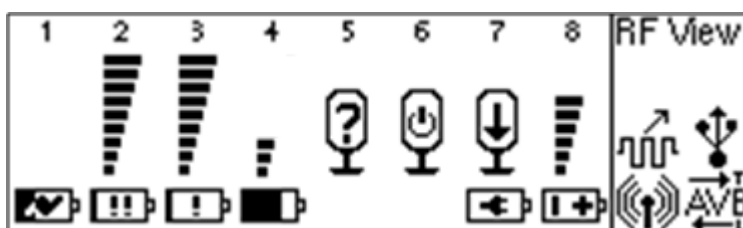
LCDディスプレイとナビゲーションキーパッドを併用すると、新たに機器を追加しなくても、Executive Eliteシステムのモニタリングとシステム設定の管理が簡単にできるようになります。ホーム画面には、音声レベル、無線信号強度、およびアナログ音声出力のゲイン設定の利用に関する情報が表示されます。メニュー構造にはシステム情報が表示され、システムや音声の設定を変更できます。フロントパネルはマイクのペアリングやペアリングの解除に使用することもできます。Executive Eliteシステムのすべてのオプションおよび機能を管理するWeb UIのかわりになるものではありません。また、Web UIでシステムのセットアップが済んでいない場合、パスワード保護された部分にフロントパネルインターフェースからアクセスすることはできません。

## ホーム画面

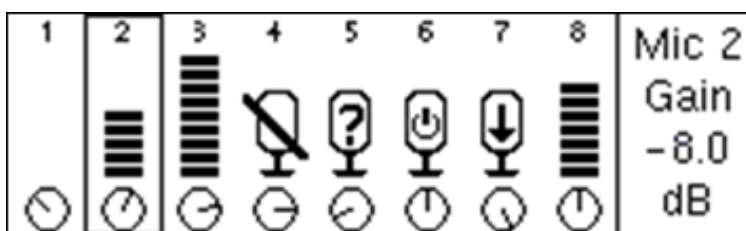
Executive Eliteシステムを起動すると、フロントパネルLCDには初期ページとして「Volume Unit」(VU)画面が表示されます。フロントパネルUIには、この画面を含めて3つのホーム画面があります。「VU」ページの表示中に、LCDの右側の「上」ボタンや「下」ボタンを使用すると、他の2つのホーム画面が表示されます。



「VU」画面には、ミュートが解除されているリンク済みのマイクの音量とバッテリー残量が表示されます。




「VU」画面で「上」ボタンを押すと、各マイクのレシーバーで測定された無線信号強度が「RF View」ホーム画面に表示されます。





「VU」画面で「下」ボタンを押すと、マイクチャンネルごとのVUメーターおよび入力ゲイン設定が「Gain Control」画面に表示されます。この画面からは、ユーザーが入力ゲイン設定を変更できます。ゲインを調整する場合は、ゲイン画面で「Enter」を押すと黒い選択枠が表示されます。チャンネルの選択には「左」および「右」のボタンを使用します。正しいチャンネルを選択したら、「上」および「下」のボタンを使用して1dB刻みでゲインを変更します。選択したチャンネルのゲイン設定は、LCD内の右側に表示されます。チャンネル選択モードからは「Gain Control」画面を終了できません。「Gain Control」画面を終了するには、再度「Enter」を押して通常モードに戻ります。通常モードでは「上」および「下」でホーム画面が切り替わるため、「右」矢印ボタンを押すとメインメニューが表示されます。


ゲインを変更したり、ユーザーが値を変更できるフロントコントロールパネルのメニューを開いたりしたときは、次に進む前にパスワードの入力が求められます。パスワードを入力するには、左右の矢印ボタンを使用して桁を選択し、「上」ボタンでその桁の数値(0~9)を変更します。「Enter」を押すとパスワードが確定し、「下」を押すとキャンセルボタンにカーソルが移動します。フロントパネルでは、「Admin Settings」サブメニューでユーザーが明示的にログアウトしない限り、パスワードの有効時間は20分です(詳細は下記参照)。初期設定パスワードは**7386**です。この設定は、フロントパネルインターフェースの「Admin Settings」メニューまたはWeb UIの「System Configuration」メニューから変更できます。

3つのホーム画面はそれぞれ3つのセクションに分かれており、各セクションには異なる情報が表示されます。画面の一番右側には、外部システム情報ボックスの上にホーム画面の名前が表示されます。名前の下にはアイコンが最大4つ表示され、特定の外部システムとの接続状況が示されます。

: アンテナ。このアイコンは唯一、情報ボックス内に必ず表示されます。このアイコンが点滅している場合は、アンテナとベースステーション間の通信が行われていません。連続点灯している場合はアンテナとベースステーション間で通信が行われています。


: シンクバスでの有線シンク。Executiveシステムでシンクバスを使用し、有線でシンクしている場合このアイコンが表示されます。シンクモードの設定はベースステーションが外部クロックを探し始める前に設定してください。また、シンクモードがExternalになっている場合はアイコンの矢印が左下向きになり、シンクモードをInternalに設定したベースステーションと接続しなければリモートアンテナを認識せず、アンテナのアイコンが点滅します。


: USB。フロントパネルのUSBを使用している場合は、このアイコンが表示され、USBポート経由で通信していることを示します。


: AVB。AVBがベースステーションに接続されていると「AVB」アイコンが表示されます。ベースステーションがトーカーまたはリスナーとしてセットアップされると、「AVB」の文字の上または下に矢印が表示されます。ベースステーションの設定は、「T」であればトーカー、「L」であればリスナーとして設定されています。

フロントパネルUIのチャンネル情報セクションは、外部システムボックスと縦線で分割されています。一番上に各チャンネルのラベルが表示され、選択中のホーム画面に応じて、その下の2行にさまざまな情報が表示されます。

すべての画面で、一番上の行にリンク済みマイクやそれ以外のマイクのステータスが以下のアイコンで表示されます。

: リンクが失われたマイクまたはステータスが不明のマイク

: ファームウェア更新中

: スタンバイモード

マイクがペアリングされていないチャンネル、マイクを充電中のチャンネル、またはマイクの電源が切れているチャンネルでは情報が表示されません。

この行には、下記のようなアイコンが表示されることもあります。



：ミュートアイコン。リンク済みマイクがミュートの場合に、「VU」画面に表示されます。



：VUメーターまたはゲインメーター。リンク済みマイクのミュートが解除されている場合、「VU」画面にはVUメーターが表示されます。「Gain」画面のメーターも同様の表示ですが、設定されていない場合は変更されません。また、すべてのリンク済みマイクが表示されます。



：RFメーター。「RF」画面には、ベースステーションが受信したすべてのリンク済みマイクの電波強度が表示されます。干渉が発生したマイクや位置が遠いマイクでは無線強度が低下します。

「VU」画面および「RF」画面の表示時は、2行目にバッテリー残量が表示されます。使用されるアイコンは下記のとおりです。



：リンク済みマイクの場合は、充電レベルを示す黒い部分がバッテリー残量アイコンに表示されます。



：チャージャーベースに置かれている場合は、バッテリーアイコンの上に充電中マークも表示されます。<sup>1</sup>



：永続的なクロスオーバーアダプターを使用するマイクの場合は、電源コネクタ付きのバッテリーアイコンが表示されます。永続的なクロスオーバーアダプターがあると、マイクでバッテリーを消費しなくなります。



：+/-付きのバッテリーアイコンは、充電できないバッテリーであるか、またはバッテリーのタイプが間違っていることを示します。そのようなバッテリーはチャージャーベースに置いても充電されません。



：新しいバッテリーを挿入したマイクをチャージャーベースに置くまで、バッテリーのタイプは特定されません。この時点まではバッテリーアイコンに疑問符が表示され、バッテリーのタイプが不明であることが示されます。



：バッテリー残量10%未満。



：バッテリー残量5%未満。

「Gain」画面ではこの行にバッテリー残量が表示されず、かわりに上のメーター行に表示されたゲインに対応するデジタル式の「ゲインつまみ」が表示されます。



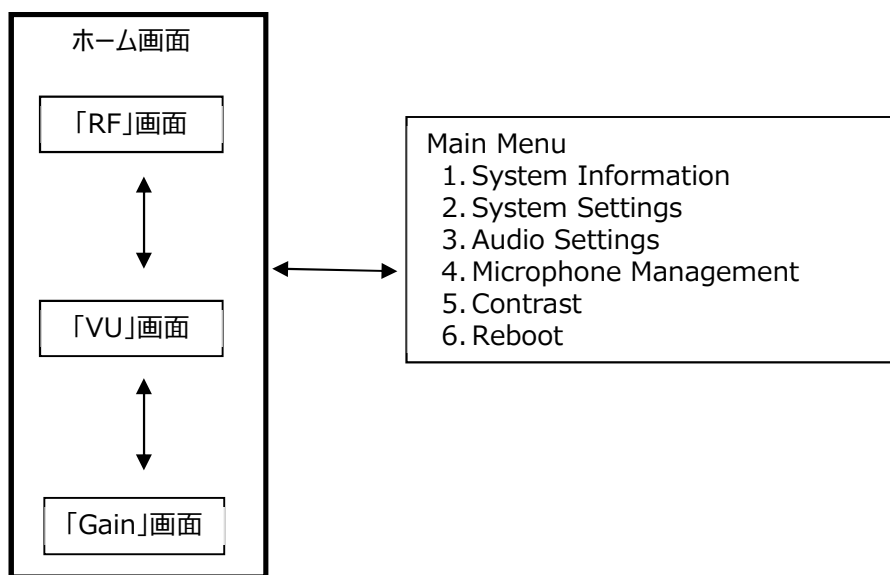
：ゲインつまみ

<sup>1</sup> チャージャーベースにマイクを置いてから充電中シンボルが表示されるまで、数分程度かかる場合があります。

## フロントパネルのメニューツリー

メニューツリーを操作する際は、「右」ボタンを使用してメニューの表示、「左」ボタンでメニューの終了、「上」および「下」ボタンでメニューのオプションをスクロールできます。メニュー項目の選択には「Enter」ボタンを使用します。項目がサブメニューの場合はサブメニューが開きます。チェックボックスの場合はオプションが選択されるか、または選択が解除されます。選択肢（「ラジオボタン」）の場合はその値が選択されます。値を入力する項目の場合は、「上」および「下」ボタンで値を変更できるようになります。その場合に再度「Enter」を押すと、値が保存されてデータ入力モードが終了します。

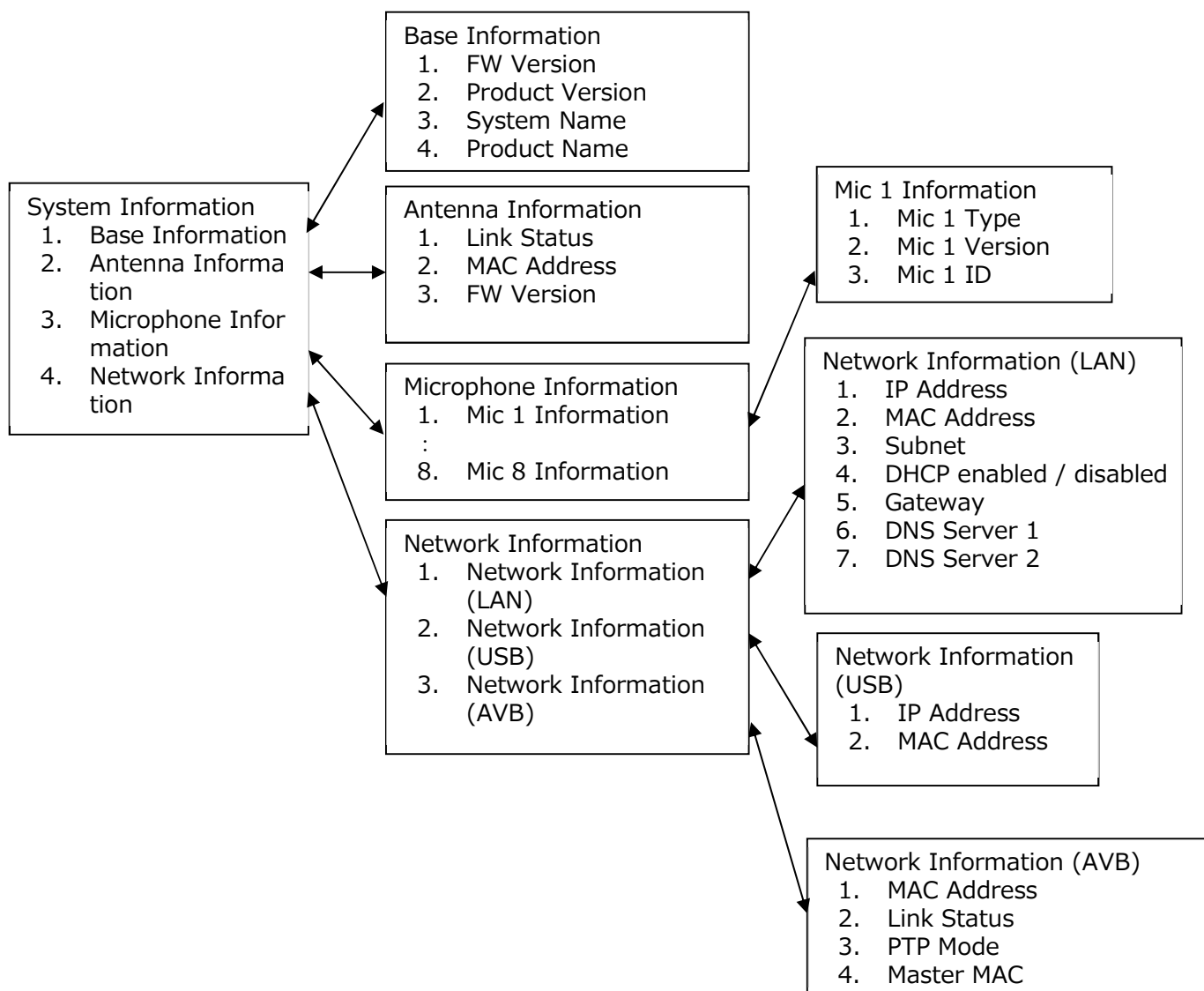
### Main Menu（メインメニュー）



メインメニューの最初の5つのオプションはサブメニューです。サブメニューについては後述します。5つめの項目「Contrast」ではフロントパネルのコントラストを調整します。6つめの項目「Reboot」を選択するとシステムが再起動されます。

## System Information (システム情報)

「Main Menu」の最初のオプションは「System Information」です。「System Information」には、ベースステーション、リモートアンテナ、マイク、および利用できるネットワーク接続についての情報が表示されます。このメニューおよびサブメニューの情報は変更できません。



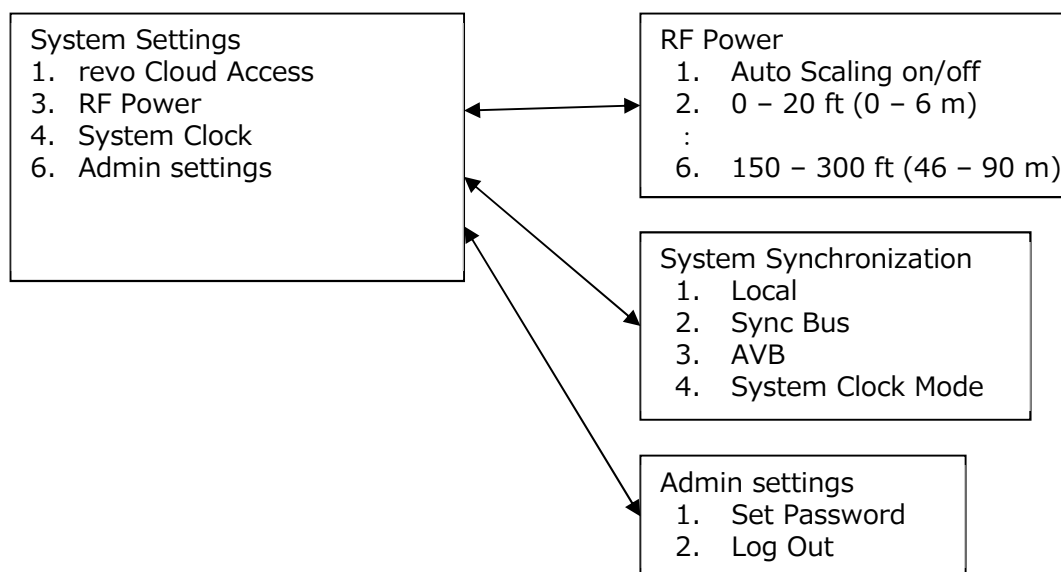
「Base Information」には、ベースステーション上で動作中のファームウェア、製品バージョン、製品名およびシステム名についての情報が表示されます。

「Antenna Version」メニューには、アンテナへのリンクの動作状況、リモートアンテナのMACアドレス、およびリモートアンテナで動作中のソフトウェアのファームウェアバージョンが表示されます。

「Microphone Information」サブメニューには、ペアリング済みマイクの一覧が表示されます。その一覧から任意のマイクを選択すると、マイクタイプ、ファームウェアバージョン、マイクのIDなど、その特定のマイクに関する情報が表示されます。

「Network Information」セクションでは、ユーザーが使用できる3種類のネットワークそれぞれにサブメニューが用意されています。「Network Information (LAN)」には、DHCPの有効/無効状態、LANネットワークのベースステーションのIPアドレス、インターフェースのMACアドレスやその他のネットワーク情報など、標準LAN接続に関する情報が表示されます。「Network Information (USB)」オプションには、Eliteベースステーションの前面にあるUSBコネクタのネットワーク情報が表示されます。最後の「Network Information (AV B)」には、Eliteベースステーションの背面にあるAVB接続に関する情報が表示されます。これには、リンクのステータス、インターフェースのMACアドレス、PTPモード、AVBマスターのMACアドレスなどがあります。

## System Settings (システム設定)



「System Settings」サブメニューを使用すると、ユーザーがExecutive Eliteのシステム設定の一部を変更できます。

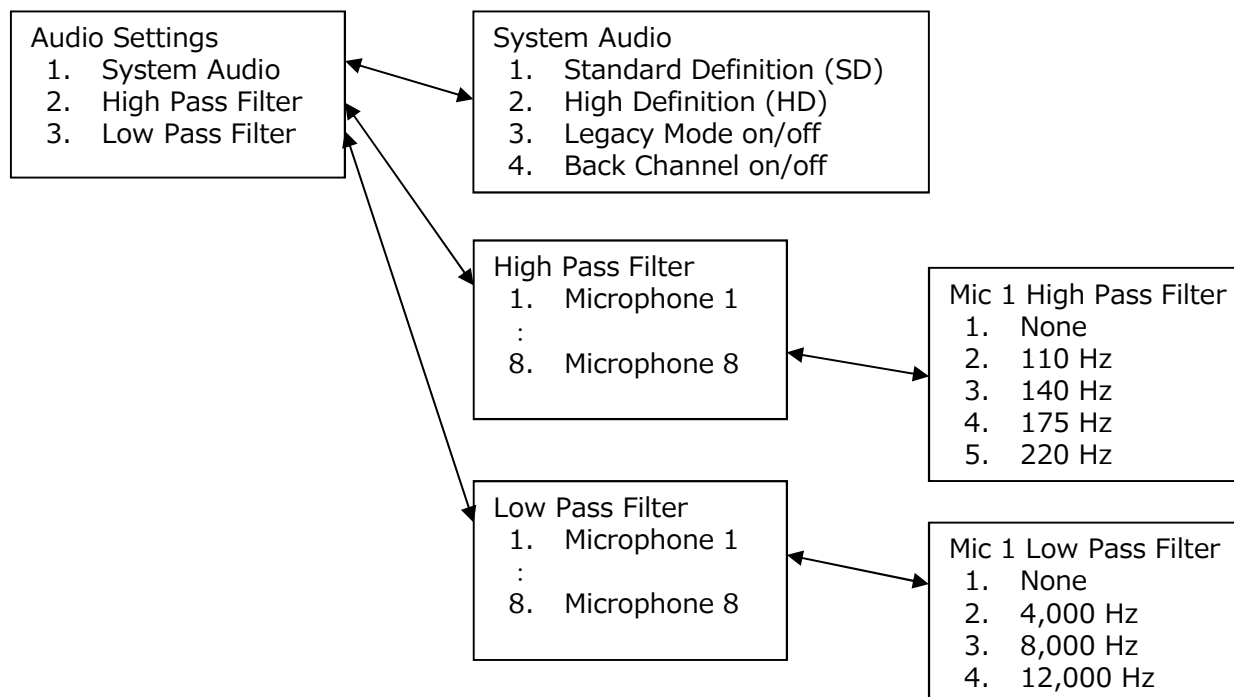
「RF Power」設定では、ベースステーションのRF強度の調整、無線トラフィックの制限、および他の場所との干渉範囲を限定することができます。その付近での干渉が最も小さく、電波の有効範囲が適切なRF強度を選択してください。マイクがリモートアンテナから45～90m離れても使用できるほど強い信号を発する「RF Power」設定にすると、付近にある他のRevolabsデバイスでも受信されることがあります。Web UIでさまざまな無線設定をテストし、RFスペクトルアナライザーを使用して、各設定での状況を確認してください。「Auto Scaling」は、システムでRF強度を自動的に下げる機能です。必要ないときにも強度を下げてしまうことがあるため、無線強度の高い環境以外ではこの設定を無効にする必要があります。

「System Clock」メニューでは、Executive Eliteシステムのシンクモードを設定できます。モードを選択すると「System Clock Mode」サブメニューが開き、クロックを共有する「Internal」とするか、外部のクロックマスターを検索する「External」とするか、システムの設定を選択するよう求められます。

「Admin Settings」メニューでは、Web UIおよびフロントパネルで使用する標準パスワードを変更できます。また、フロントパネルからログアウトすることもできます。



## Audio Settings (音声設定)



「Audio Settings」セクションを使用すると、Executive Eliteシステムの音声プロパティを変更できます。

「Standard Definition (SD)」では、各マイクチャンネル用に確保するRFスロット数を減らします。圧縮率をやや高くするため音声品質が少し下がりますが、同時使用できるマイクの本数が増えます。「High Definition (HD)」では、各マイクチャンネルに確保するRFスロットを増やします。音声品質は上がりますが、同じ場所で同時使用できるマイクの本数は少なくなります。Web UIには、各設定に従ったエリアごとの推奨最大マイク本数が、追加情報として表示されます。

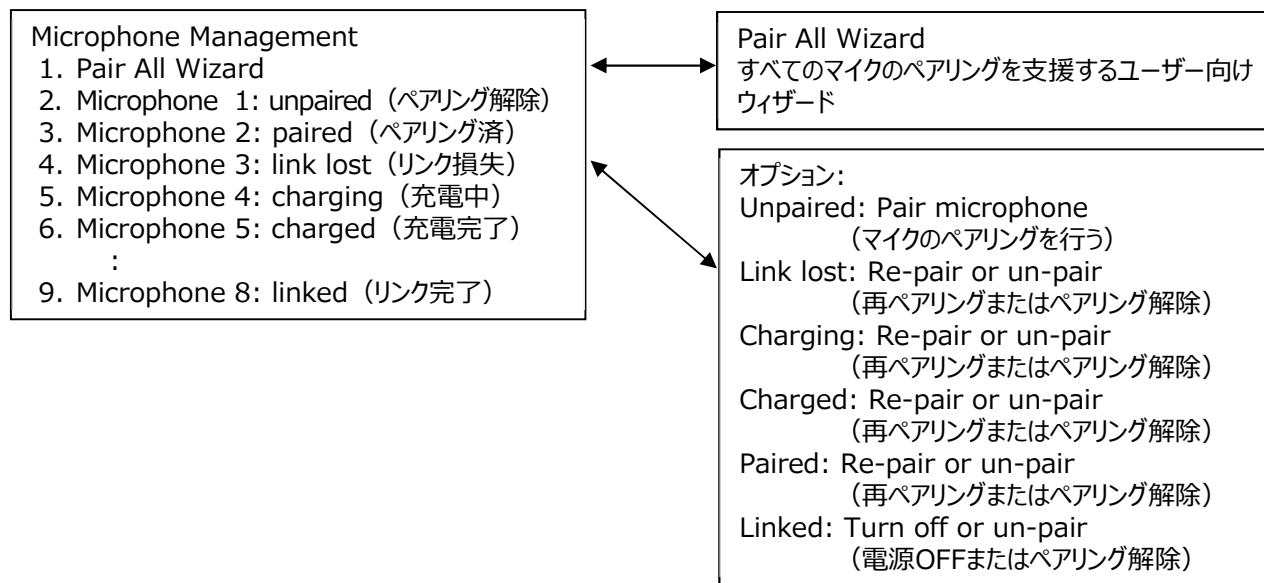
Executive EliteシステムをExecutive HDと併用する場合やExecutive HDシステムの近くで使用する場合は、「Legacy Mode」を選択してください。Executive EliteのHD設定と比較すると、「Legacy Mode」では各マイクに必要なRFスロットが大きくなります。Executive HDシステムが存在しない環境では、この設定をOFFにする必要があります。

「Back Channel Audio」チェックボックスでは、ベースステーションからExecutive Eliteマイクに送信する音声の有効/無効の切り替えができます。バックチャンネル音声を使用しない場合は、このオプションをOFFに切り替え、RFスロットの空きスペースを増やします。Executive Eliteシステムを「Legacy HD」モードで使用する場合は、Executive HDには音声バックチャンネルが必要なため、チェックボックスの選択を解除できません。

**注:** Web UIの「System audio」ページには、選択した設定ごとの推奨最大マイク本数に関する情報が表示されます。Web UIの「RF Analyzer」ページにはRFスロットの正確な使用状況が表示され、無線環境の通信状況の平均とピークに基づいて、追加できるマイクに関する情報も表示されます。

「High-Pass Filter」および「Low-Pass Filter」の各メニューでは、マイクごとに音声フィルターを管理します。ハイパスフィルターは、エアコンやプロジェクターなどからの低域の雑音レベルが高い場所で使用します。ローパスフィルターは、高帯域音声をサポートしないアプリケーションや製品で使用し、不要な影響が発生しないようにします。

## Microphone Management (マイク管理)



マイクのペアリングおよびペアリング解除は「Microphone Management」メニューで管理します。

「Pair All Microphones Wizard」では、手順に沿ってすべてのチャンネルにマイクをペアリングします。このウィザードは、新しいシステムを設置したとき、および既存のシステムですべてのマイクを交換するときに使用します。ウィザードを使用するとチャンネル設定をスキップできるため、一部のマイクのみをシステムとペアリングすることもできます。

各マイクを選択すると、対応するチャンネルのマイクの現在のステータスに基づいたオプションが開きます。マイクがペアリングされているチャンネルでは、そのマイクのペアリングを解除できます。マイクを再ペアリングすることもできます。ベースステーションで現在のペアリング情報を削除してから、ペアリング手順を開始してください。このメニューの最後のオプションは、ペアリング済みのマイクが有効（リンク完了）な場合にのみ表示されます。リンク済みのマイクは、「Turn off」を選択するとリモートで電源をOFFにできます。

選択したチャンネルにマイクがペアリングされていない場合は、ペアリングオプションだけがメニューに表示されます。

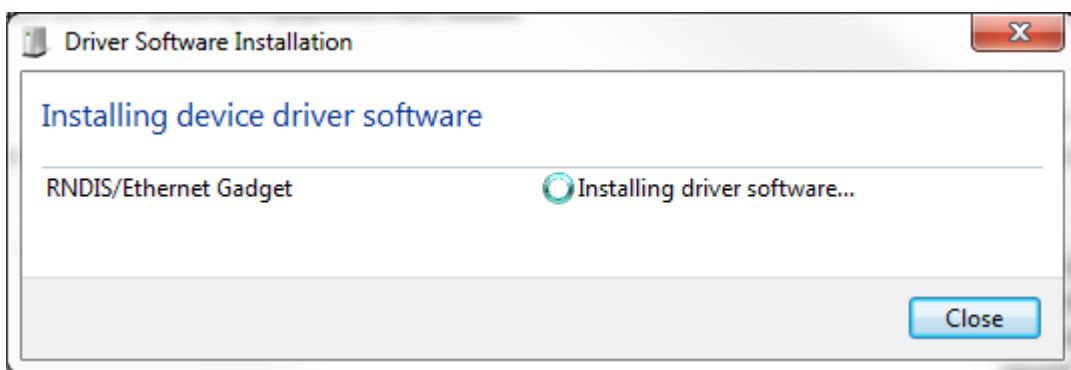
## Web UI

Web UIを使用すると、Executive EliteベースステーションをWebブラウザから管理できます。Web UIへのアクセスは、IPネットワーク経由（Executive EliteベースステーションがイーサネットケーブルでLANに接続されている場合）またはベースステーションの前面にあるUSBコネクタ経由で行います。

**注:** Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer、Google ChromeおよびMozilla Firefoxをサポートしています。

### Web UIへの接続

USBインターフェースを使用してコンピューターに初めて接続する場合、そのコンピューターにドライバーソフトウェアをインストールし、USBポート経由によるWebアクセスの有効化が必要となることがあります。このインストール作業には数分ほどかかることがあり、次のようなインストールメッセージが表示される場合があります。



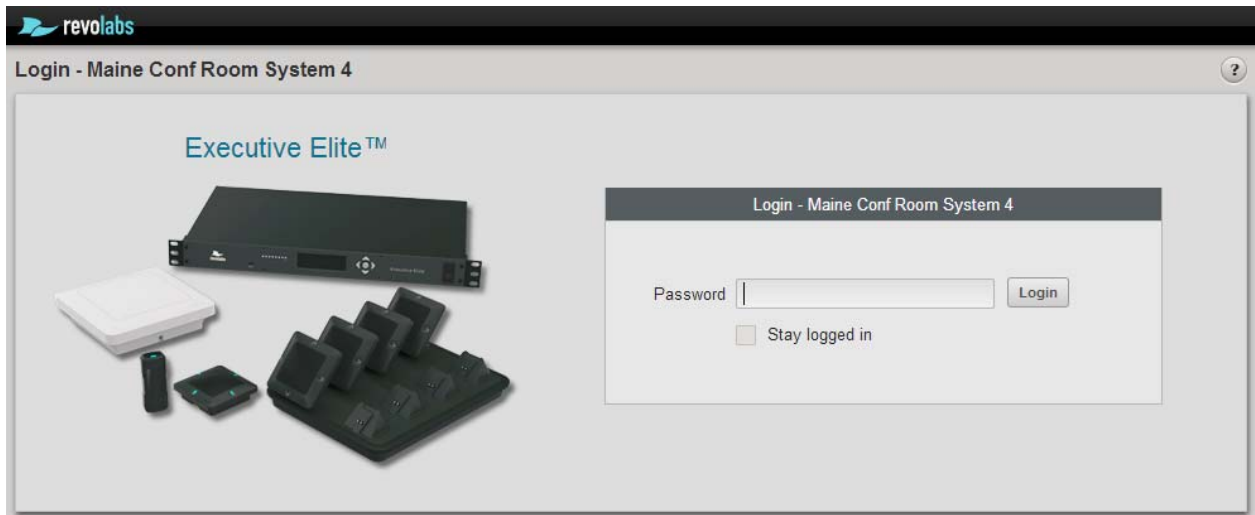
**注:** 上記または類似のメッセージが表示されない場合は、ドライバーのインストールに失敗しているおそれがあります。その場合、USBポート経由でExecutive EliteシステムのWebインターフェースに接続できません。お使いのコンピューターのドライバー更新設定に原因があると考えられるため、問題が解決されない場合はコンピューターの「自動更新」が無効化されているかを確認し、必要に応じて管理者に連絡してください。

ドライバーをインストールすると、USBインターフェースのIPアドレスがフロントパネルLCDに重ねて表示されます。USBインターフェースのIPアドレスは、「Main Menu」-「System Information」-「Network Information」-「Network Information (USB)」を選択して確認することもできます。

Executive EliteベースステーションがLANに接続されている場合は、間にファイアウォールがない同一サブネット上のコンピューターを使用し、Web UIインターフェースにアクセスすることもできます。EliteシステムはDHCPを使用するように初期設定されているため、お使いのDHCPサーバーにIPアドレスをリクエストします。LANインターフェースに静的IPアドレスを指定する場合は、フロントパネルインターフェースで「Main Menu」-「System Information」-「Network Information」-「Network Information (LAN)」に移動すると指定できます。

## 「Login」ページ

お使いのデスクトップパソコンまたはノートパソコンで、サポートされているWebブラウザを開き、Executive EliteベースステーションのIPアドレスを入力します。Executive Eliteベースステーションに接続すると「Login」ページが表示され、システムパスワードを入力するよう求められます。Web UIとフロントパネルのパスワードは共通で、初期設定は**7386**です。フロントページまたはWeb UIからこのパスワードを変更すると、どちらのインターフェースでも変更後の新しいパスワードが必要になります。



パスワードを入力して「Login」ボタンをクリックすると、次のページに進みます。

パスワード入力フォームの下にあるチェックボックスにチェックを入れると、操作のない時間が続いてもWeb UIがタイムアウトしなくなります。ただし、ブラウザウィンドウを閉じてから60秒が経過すると、Web UIからログアウトします。このオプションを選択する場合は、必ずWebインターフェース経由でログオフするか、Webブラウザを閉じてからコンピューターを終了してください。

## 初回使用時の設定

システムを動作させる前にいくつかシステム全体の設定を行う必要があるため、Executive Eliteベースステーションを設置してWebインターフェースを初めて開くときは、設定を行うためのWebページが最初に表示されます。

Revolabs Execute Elite - New System Configuration

System Identification

System Name Required

Country / Region USA/Canada

This information is used to determine the correct radio frequency for your location. Selecting a different region than yours might void the right to use the system. If you are unsure about the region you are in, you can look up information [here](#) or contact Revolabs support at [support@revolabs.com](mailto:support@revolabs.com).

Cluster Name ?

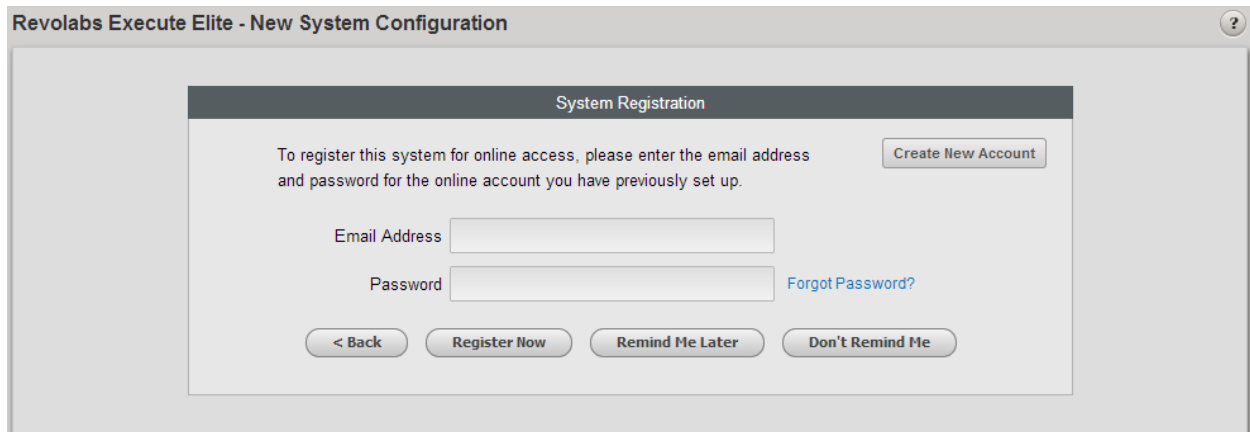
- If this system is part of a cluster, enter the cluster name.
- If this is the first system in a cluster, use this name when you configure other systems in the cluster.
- Leave this field blank if this is a standalone system.

Next >

「New Systems Configuration」ページでは、システム情報の入力が必要です。「System Name」は、複数のシステムがインストールされている環境でシステムを識別する場合に有効です。入力必須項目のため、名前を必ず入力してください。

「Cluster Name」を入力すると、複数のEliteシステムに共通するマイクグループを定義できます。同一クラスターに所属するEliteシステムはネットワーク内でお互いを検出するため、ミュートコマンドが連動するようになります。これによって複数のベースステーション間にマイクグループを定義できるため、ミュート動作が有効となるマイクグループの規模が大きくなります。他のシステムと連動する予定のないスタンドアロンのシステムでは、クラスター名を指定しないでください。システムがクラスターに所属するかどうか不明な場合や、クラスター名が分からない場合、現時点では名前を指定しないでください。クラスター名は、Web UIの「System Configurations」ページで後から入力できます。

このページでの情報入力が済んだら「Next」をクリックします。



「New System Configuration」ページでは、revoCloudアカウントの設定を行います。このrevoCloudは日本未対応ですので、「Remind Me Later」をクリックしてウィンドウを閉じます。次回ログイン時、「Don't Remind Me」をクリックすることで、登録の再通知はされなくなります。「System Registration」ページから移動するとポップアップウィンドウが表示され、マイクのペアリングを行うタイミングを尋ねられます。



マイクのペアリングを開始できる場合は、ペアリングウィザードの手順に沿って空きチャンネルにマイクをペアリングします。マイクのペアリング準備が整っていない場合は、Webインターフェースを使用して後からペアリングできます。

ペアリングが終了するか、ペアリングのページで「Later」を選択した場合は、「Monitor」ページに移動します。今後、Web UIにアクセスすると、ログイン後に初期ページとして必ずこのページが表示されます。

## 「Monitor」ページ

ファームウェアバージョン1.1.5.458以前はWeb UIでリアルタイムにシステムステータスを表示するためにJavaアプレットが必要でした。ベースステーションの設定変更やリアルタイムでシステムステータスを表示するにはJavaアプレットを有効にする必要があります。

ファームウェアバージョン1.1.5.458以降ではWeb UIを使用する上で、Javaアプレットは不要になりました。

「Monitor」ページには、システムに含まれるマイクの現在のステータス情報が表示されます。マイクのチャンネルが番号順またはグループでソートされて表示されるほか、各チャンネルの情報も表示されます。チャンネルでマイクがペアリングされていない場合は、マイクをペアリングするペアリングボタンが表示されます。

一番上の行にはグループ名が表示されます。初期設定では、すべてのマイクチャンネルが「Default」というグループに割り当てられています。



- 1 - 「Mute Lock」ボタン: マイクのミュートの有効/無効を切り替えます。
- 2 - 「Chairman」アイコン: このマイクはこのグループの議長（Chairman）に設定されています。
- 3 - 「Individual Mute」ボタン: マイクのミュートボタンと同様に動作しますが、Web UIから操作します。
- 4 - 「Tabletop Mute」アイコン: 「Tabletop」モードを示します。
- 5 - 「Push-to-Talk Mute」アイコン: 「Push-to-Talk」モードを示します。
- 6 - 「Chairman Mutes」（「All」および「Members」）: グループ内のすべてのマイクをミュートするか、または議長を含むすべてのマイクをミュートします。
- 7 - 「Microphone Dropdown」メニュー: マウスポインターを列の上に移動させると表示されます。「Microphone」メニューを表示する場合にクリックします。

ペアリング済みマイクの場合、「Monitor」ページにはマイクのタイプ、現在のステータス、充電レベル（%）、現在の音声出力レベル、およびリモートアンテナが検出したマイクの無線信号強度が表示されます。「Mute Control」領域には、ミュートグループ設定、およびマイク単位またはグループ単位での現在のミュート設定に関する情報が表示されます。この領域を使用すると、マイクミュートボタンのロックやグループ設定に基づくマイクのミュート/ミュート解除の切り替えなど、マイクの設定を変更できます。マイクのアイコンは、マイクごとの現在のミュートステータスを表しています。

グループ単位ではなく、番号順にマイクを表示したい場合は、ページの右上にある「View By:」オプションで表示モードを変更します。このオプション以外にも、「Manage Groups」ボタンを使用して「Group Management」ページに移動できます（このボタンは「Audio Management」メニューにもあります）。

「Monitor」および「Microphone Audio」のどちらのページにもマイクコントロール用のドロップダウンメニューがあり、マイクのテーブルから操作できます。このメニューを開くには、マイク列の上にマウスポインターを重ねます。すると白地に黒の矢印が右上隅に表示されます。この矢印をクリックするとマイクコントロール用のメニューが開き、下記のオプションにアクセスできるようになります。

- **Mute LED Behavior:** このオプションにマウスポインターを重ねるとサブメニューが開き、マイクミュート時のLED動作を変更できます。工場出荷時設定はミュート解除/ミュート時に「Flash Green/Red」ですが、「Solid Green/Red」または「Solid Green/Off」に変更できます。「Solid LED」動作を選択すると、バッテリーの消費量が増えるためマイクの最大通話時間に影響するため注意してください。ミュート時のLED動作はマイク単位で設定します。
- **Tray LED Behavior:** このオプションにマウスポインターを重ねるとサブメニューが開き、マイクがチャージャーベースにセットしているときのLED動作を変更できます。工場出荷時設定は充電中は「Solid Red」、満充電になると「Solid Green」です。この動作を充電中は「Flash Red」、満充電になると「Solid Red」となるよう変更できます。このチャージャーベースにマイクをセットした際のLED動作を変更すると、全てのマイクが変更されます。
- **Unpair Mic:** 選択したマイクでEliteベースステーションとのペアリングを解除します。マイクは電源を入れなおしても再リンクされません。
- **Restart Mic:** 選択したマイクの電源が切れて再起動し、電源が入った後に再リンクします。
- **Enter Standby/Leave Standby:** 選択したマイクと同じグループのマイクすべてがスタンバイモードになります。このモードでは、マイクが10秒ごとに1回黄色で点滅します。スタンバイモードの消費電力は極めて少なく、マイクのミュートボタンに触れるか、マイクコントロール用のドロップダウンで「Leave Standby」を選択するとスタンバイモードを解除できます。
- **Power down Mic:** 選択したマイクの電源が切れますが、ペアリングは解除されません。マイクの電源を入れると再リンクされます。



## 「Microphone Audio」(マイク音声) ページ

	Table group			Panel table		Lectern		Presenter
	1	3	5	2	6	4	8	7
MIC TYPE	Omni	XLR		Directional	Directional	Mini XLR	Mini XLR	Wearable
STATUS	On	On	Not Paired	On	On	On	On	On
INPUT SIGNAL	Trim	Preamp Trim		Trim	Trim	Preamp Trim	Preamp Trim	Trim
FILTERS								
EQ								
ANALOG OUTPUT	Mic Line	Mic Line		Mic Line	Mic Line	Mic Line	Mic Line	Mic Line
DIGITAL OUTPUT								

「Microphone Audio」ページでは、マイクごとに音声パラメーターを設定できます。このページは2つの領域に分けられています。上の領域は、入力信号の調整と、フィルターやEQ設定を音声に適用して信号を処理するためにセットアップされています。下の領域は、主に出力信号と出力ゲインステージ、およびアナログ音声出力のマイク/ラインレベル設定が中心です。

### Input Signal (入力信号)

「Input Signal」領域では、マイクごとの入力信号を個別にトリミングし、複数のマイクの入力レベルを個々に最適化できます。

XLRアダプターおよびTA4アダプターの場合は、さらにプリゲインステージが用意されています。Revolabsのマイク（無指向性、指向性、グースネックおよびウェアラブル）は、音声のクリッピングリスクを最小限に抑え、最適なSN比を得ることに重点を置きつつ、同一レベルの信号を出力するよう設定されます。XLRアダプターおよびTA4アダプターにはサードパーティ製のマイクエレメントにより、受音します。プリゲインステージの目的は、上記のマイクのアナログ信号を均一化する際に高い制御性を実現し、クリッピングすることなく信号レベルを最大化することです。上記のアダプターとともに使用するマイクエレメントに応じて、信号の設定が正しいことを確認してください。

### Filters (フィルター)

室内やアプリケーションの要件に合わせた調整を行うため、ハイパスフィルターとローパスフィルターが用意されています。ハイパスフィルターは、周波数の低い背景雑音（エアコンや照明器具など）が大きい室内で使用します。ローパスフィルターを使用すると、使用するアプリケーションに基づいて高域周波数を制限できます。すべてのフィルターは双2次フィルターで、信号をオクターブ当たり6dB低下させます。

## EQ

EQは4バンドで動作します。

バンド	開始周波数	中心周波数	終了周波数
低域	100Hz	150Hz	250Hz
低～中域	250Hz	489Hz	1,000Hz
中-高域	1,000Hz	1,739Hz	3,000Hz
高域	3,000Hz	4,450Hz	6,000Hz

ゲイン調整はバンド内の中心周波数前後で最大 $\pm 10$ dBであり、境界周波数ではドロップオフが0dBに調整されます。

### Analog Output (アナログ出力)

「Analog Output」を選択すると、アナログポートに出力された音声信号がVUメーターに表示されます。ここで最終ゲインステージを指定することで、信号がExecutive Eliteベースステーションを出る前にゲインまたはトリムを適用できます。「Line」レベル出力では、「Mic」レベル出力と比較してさらに20dBのゲイン信号が出力されます。

### Digital Output (デジタル出力)

「Digital Output」には、AVBで出力された出力信号のVUメーターが表示されます。デジタル出力のデータは受信側装置での追加処理を想定しているため、デジタル出力にゲインステージは用意されていません。

## Audio Management (オーディオ管理)

「Audio Management」メニューには、「Manage Groups」ページおよび「System Audio」ページが含まれています。

### Manage Groups (グループの管理)

マイクグループを使用すると、個々のマイクまたはマイクのまとまりごとに異なるミュート動作を定義できます。1つのExecutive Eliteシステムの複数のマイクを任意の数のマイクグループに割り当てると、各グループにグループ固有のミュート動作を指定できます。クラスターを導入すると、ミュートグループを複数のExecutive Eliteベースステーションに拡張し、異なるシステムのマイクを含めることができます。複数のExecutive Eliteベースステーションにまたがるミュートグループを作成するには、EliteベースステーションがIPネットワークに接続され、同一サブネットに属している必要があります（クラスターのセットアップ方法については40ページを参照してください）。

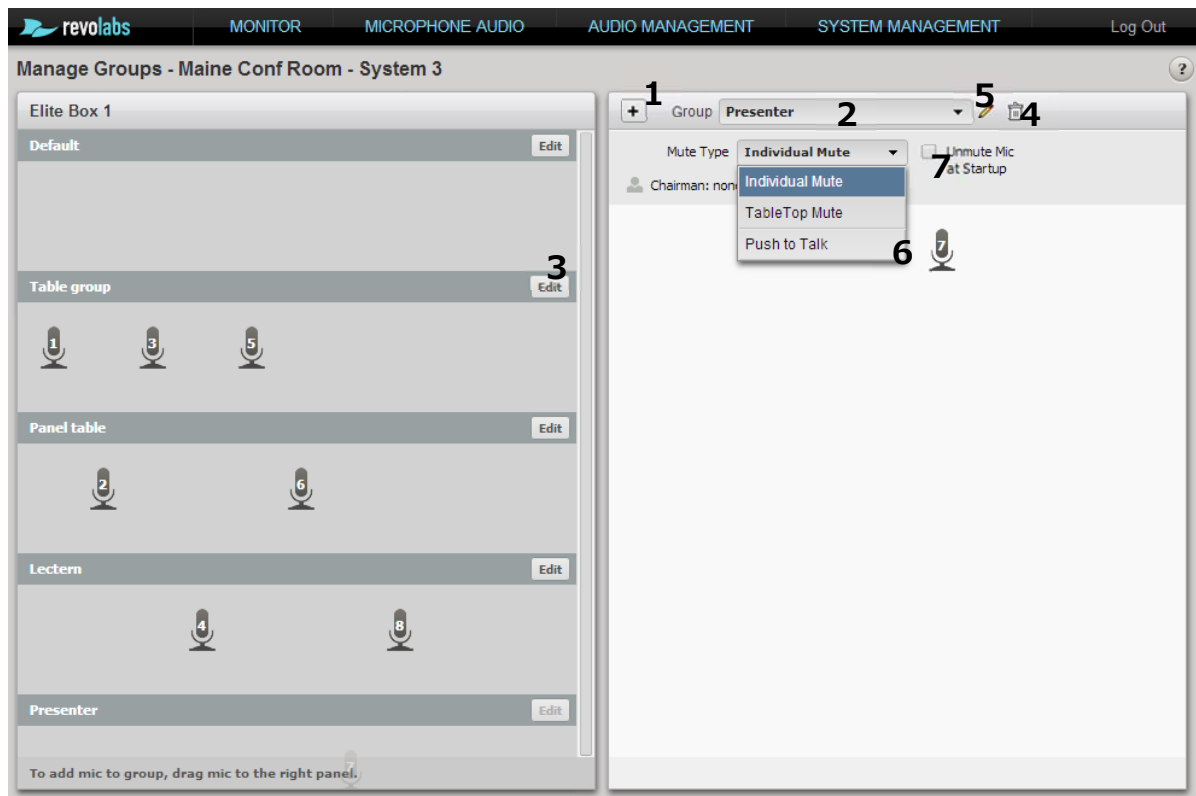
Executive Eliteベースステーションを既存のクラスターに追加すると、追加先のシステムとクラスター登録済みのシステム間でミュートグループ名が交換され、クラスター内のすべてのシステムが同じミュートグループになります。

**注:** 1つのExecutive Eliteベースステーションまたはクラスターには、ミュートグループを10個まで作成できます。複数のExecutive Eliteクラスター、またはクラスターに参加していないExecutive Eliteベースステーションが同一ネットワーク上にある場合や同じシンクバスを使用している場合、各クラスターのミュートグループ、またはクラスターに参加していないExecutive Eliteベースステーションは互いに独立しており、それぞれの最大ミュートグループ数には影響しません。

**注:** 同一クラスター内で他のユニットを検索する場合、Executive EliteベースステーションはIPネットワークのポート5001で通信を行います。企業のネットワークではこのポートがルーターやファイアウォールでブロックされていることが多いため、お使いのネットワーク内でこのポートがオープンされ、ネットワーク外への通信が遮断されていることを確認する必要があります。

同一クラスターに割り当てられ、同一サブネット上にあるExecutive Eliteベースステーションは、互いにミュート情報を交換します。クラスター内の異なるExecutive Eliteベースステーション上に同じ名前のグループが存在する場合、自動的に同じグループに所属するものと認識されるため、ベースステーション間でミュート情報を交換している最中に同じ名前のグループのミュート状態を変更すると、その変更は両方のEliteベースステーションのマイクに影響します。

すべてのExecutive Eliteベースステーションには、システム新規設定時のマイクをすべて含む、「Default」グループが1つ設定されます。



「Manage Groups」画面には、選択したシステムに定義されているグループのリストが左側に、現在有効なグループが右側に表示されます。

右列の左上にある「+」記号（1）をクリックすると、新しいグループが作成されます。このとき、グループ名を入力する必要があります。各Executive Eliteベースステーション、つまりすべてのベースステーションクラスターには、そのクラスター内に最大10個のミュートグループを設定できます。お使いの環境で不要になったミュートグループは削除してください。

グループの管理や変更を行うには、そのグループが有効なグループとして画面の右側に表示されている必要があります。有効なグループのグループ名は「Group」フィールド（2）に表示されます。別のグループをアクティブなグループとして選択するには、右列の「Group」フィールドでドロップダウンからグループを選択するか、左列で該当するグループの「Edit」ボタン（3）をクリックします。これにより、選択したグループが画面の右側に表示されます。

アクティブなグループを削除するには、「ごみ箱」アイコン（4）をクリックします。「Default」グループに限り、削除や名前の変更ができません。

アクティブなグループの名前を変更するには、「ペン」アイコン（5）をクリックし、新しい名前を入力します。

管理のためにグループをアクティブにすると、そのグループにマイクを追加できるようになります。左の列で現在は別のグループに表示されているマイクを選択し、それを右の列にドラッグしてアクティブなグループに追加します。

マイクを削除する場合は、削除したいマイクの上にマウスポインターを重ねて右上の「x」アイコンをクリックすると、そのマイクが自動的に「Default」グループに追加されます。

アクティブなグループのミュート動作を定義するには、「Mute Type」ドロップダウンリスト（6）からミュート動作を選択します。各種のミュートグループオプションについては、74ページを参照してください。

「Mute Type」メニューの隣にある「Unmute at Startup」チェックボックス（7）では、マイクがベースステーションとリンクするときのマイクのミュート状態設定を指定します。

議長用マイクでは、グループ内の個々のマイクを別々に操作できます。どのグループに所属する議長用マイクでも、選択したミュートグループの動作とは無関係に、同じグループの他のすべてのマイクをミュートできます。議長用マイクで設定したミュートは、議長用以外のマイクからは解除できません。他のマイクのミュートボタンでミュート動作を再度操作できるようにするには、議長がグループのミュートを解除する必要があります。

議長用マイクによるミュートは3段階で行われます。まず、議長用マイク以外のすべてのマイクがミュートされます。ミュート領域に再度触れると、議長用マイクを含むグループのすべてのマイクがミュートになります。ミュート領域にもう一度触れると、すべてのマイクのミュートが解除されます。議長用マイクを除くグループ内の他のすべてのマイクを議長マイクからミュートにすると、マイクの緑色LEDが速いパターンで点滅します。この場合、LEDが点灯するミュート動作が選択されていても、LEDは緑色の点滅表示となります。

議長用マイクでグループがミュートされていない場合、マイクはそのグループのミュート設定に従って動作します。

議長用マイクを選択するには、マウスポインターを該当マイクの上に移動します。マイクの下に「Chairman」アイコンが表示されたら、そのアイコンをクリックしてマイクを議長用に設定します。マイクから議長用権限を削除するには、同じアイコンを再度クリックします。

マイクを議長用に選択すると、そのグループのミュート設定は自動的に「Individual Mute」および「Unmute at Startup」に変更されます。これらの設定は必要に応じて後から変更できます。

1つのグループに設定できる議長用マイクは1つのみです。同じグループの別のマイクを議長用に設定すると、先に設定した議長用マイク設定は無効になり、新しい議長用マイクに権限が移ります。同様に、1つのクラスターで共有されているグループ内でアクティブにできる議長用マイクも1つのみです。クラスター内の別のベースステーションに議長用マイクがある場合、そのマイクはアクティブなグループヘッダーの「Chairman」アイコンの横に「@<Elite MACアドレス>」付きで表示されます。

## System Audio Settings (システム音声設定)

「System Audio Settings」ページでは、システムで行う音声圧縮の選択、およびバックチャンネル音声とそのソースの選択ができます。

Legacy Mode:		Mic Audio	
		SD	HD
Back Channel Audio	None	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	SD	<input checked="" type="checkbox"/>	
	HD		<input type="checkbox"/>
Max Microphones: 32			
Back Channel Source	Analog	AVB	
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

マイク音声は、標準品位（「SD」）または高品位（「HD」）のいずれかに設定できます。HD音声にすると、各マイクのワイヤレスリンクで転送される音声のビットレートが2倍になります。

バックチャンネル音声とは、ウェアラブルマイクまたはTA4アダプターに出力される音声のことです。バックチャンネル音声を選択した場合、その音声フォーマットはマイク音声のフォーマットと同じフォーマットになります。バックチャンネル音声が必要なアプリケーションの場合はこれをOFFにできます。するとRF空間の利用効率が向上し、その環境で使用できるマイクの最大本数が増えます。バックチャンネル音声を指定した場合は、その音声のソースを設定する必要があります。ソースに設定できるのは、ベースステーションのアナログ音声入力ポートか、AVB音声入力です。

このWebページには、選択した音声モードにおいて1つの部屋でアクティブにできるマイク本数の予測値が表示されます。使用中の他のRevolabsシステムやマイクのほか、付近にある他のDECT機器はこのマイク本数の予測値に含まれていません。DECTスペースで実RFトラフィックのRFスペクトルを使用する方法と、それによるExecutive Eliteマイクの使用に対する影響については、43ページを参照してください。

**注:** 互いに近接するシステムと、シンクバスで接続され、AVB経由で同期またはワイヤレスで同期されるシステムは、すべて同じ「System Audio」設定を使用する必要があります。使用する設定が異なる場合は、最大マイク本数がかなり少なくなります。

Executive EliteベースステーションがシンクバスでExecutive HDユニットに接続されている場合は、「Legacy Mode」を使用してください。このモードではバックチャンネル音声を無効化できません。

## System Management (システム管理)

Web UIの「System Management」セクションには、Executive Eliteシステム、そのコンポーネントおよびシステム設定に関する情報が表示されます。以降では、その各種サブメニューについて説明します。

### System Information (システム情報)

「System Information」ページには、Executive Eliteのコンポーネントに関する情報が表示されます。

「General Info」に表示される内容は、システム名、シリアルナンバー、およびベースステーションのファームウェアバージョンです。

「Remote Antenna Receiver」セクションには、アンテナのMACアドレス、ベースバンド（アンテナ）が2つ（Executive Elite 4マイクシステム）または4つ（Executive Elite 8マイクシステム）の場合のDECT ID、およびアンテナのファームウェアバージョンが表示されます。また、アンテナの現在の接続状況も表示されます。

ページの中ほどには、システムでサポートされているマイク本数に応じて1～4または1～8のマイクがチャンネルごとに一覧表示され、同時にマイクタイプ、DECT IDおよび現在のファームウェアバージョンも表示されます。マイクがペアリングされていないチャンネルには情報が表示されません。

「Connected Units in Cluster」には、サブネット内で同じクラスター名を共有する他のExecutive EliteベースステーションのIPアドレスが表示されます。クラスター名は初期セットアップウィザード、または次の節で説明する「System Configuration」ページで設定できます。

表「Base Digital Signal Processing Unit」には、ベースステーションのIPアドレスとMACアドレス、およびベースステーションの前面にあるUSBポートが使用する固定IPアドレスが表示されます。「Network Management」ページでこの情報を変更すると、変更内容がこのページに表示されます。

「AVB Information」には、システムのAVB MACアドレスとAVBシンクモード、「Internal」デバイス（クロックマスター）のIPアドレス、およびリンクアップ/ダウン状態が表示されます。AVB未接続の場合は「Link Status」に「Down」が表示され、「Master IP Address」は表示されません。

## System Configuration (システム構成)

「System Configuration」ページでは、システム名、クラスター名、地域などのシステム設定値を指定できます。このWebページ変更した項目の値は、「Save」ボタンをクリックすると反映されます。変更内容を保存せずにページを離れると変更が破棄されます。

General Info	
System Name	Maine Conf Room - System 4
Cluster Name	
Password	....
Confirm Password	....
Enable Telnet Server	<input type="checkbox"/> On <input checked="" type="checkbox"/> Off

Language / Country	
Language	English
Country / Region	USA/Canada

Date / Time	
Time Zone	GMT-5:00 Eastern Time

System Clock	
Clock Source	Sync Bus
Clock Mode	Internal
Clock Tuning	Default

Front Panel Configuration	
Base Pairing Lock	<input type="checkbox"/> On <input checked="" type="checkbox"/> Off

「System Name」では、システムの識別名を分かりやすいものに変更できます。クラスターでシステムを識別しやすい名前を選択してください。

「Cluster Name」を使用すると、複数のExecutive Eliteシステムをグループ化し、大規模な環境にまとめることができます。サブネット内で同じクラスター名の付いたExecutive Eliteシステムはグループ情報とマイクのミュート情報を共有するため、複数のExecutive Eliteシステムに共通のミュート動作を定義できます。同一のクラスターに所属予定のExecutive Eliteベースステーションには、まったく同じクラスター名を使用する必要があります。クラスターからベースステーションを削除する場合は、クラスター名を削除し、クラスター名のフィールドを空にしておきます。Executive Eliteベースステーションを別のクラスターに追加する場合は、フィールド内に該当クラスターの名前を入力します。Executive Eliteベースステーションを一度に複数のクラスターに追加することはできません。

フロントパネルUIおよびWeb UIで使用するシステムパスワードをリセットするには、「Password」フィールドに新しいパスワードを入力し、確認のため「Confirm Password」フィールドにもう一度入力してから保存します。パスワードは4桁以上の数値を入力してください。

「Enable Telnet Server」設定では、ベースステーションへのTelnetアクセスの有効/無効を切り替えます。この設定が「Off」になっている場合、「External Control」ページのサーバー用Telnetオプションは機能しません。

「Base Pairing Lock」を選択すると、システムのフロントパネルからのペアリング機能を無効化できます。ベースステーションペアリングがロックされていない場合でも、フロントパネルでマイクをペアリングするにはパスワードが必要です。

複数のExecutive Eliteシステムが近接する環境では、システムを同期し、RF空間の利用最適化とアクティブなマイク本数の最大化を同時に実現する必要があります。同期のセットアップと管理は「System Clock」セクションで行います。



「Clock Source」では、同期に使用するクロックが指定できます。「Local」は他のExecutive Eliteと接続せず、単独で使用する場合に選択してください。

「Sync Bus」は、異なるシステム間の同期にシンクバスを使用します。

「AVB」の場合、Executive Eliteシステム間の同期にAVBネットワークを使用します。

「Clock Mode」ドロップダウンメニューは、同期方法として「Sync Bus」が選択された場合のみ有効になります。このメニューからクロックソースを指定できます。クロックのマスターにする1台のみを「Internal」に設定し、クロックのスレーブにする他のベースステーションを「External」に設定してください。必ず1台は「Internal」に設定する必要があります。

「Clock Source」に「AVB」を選択した場合は、AVBネットワーク管理ソフトウェアで1台のExecutive Eliteベースステーションを「Master Media Clock Talker」（ストリーム0）に選択する必要があります。このシステムと同期する他のExecutive Eliteシステムは、このストリーム0上のリスナーに設定します。

「Clock Tuning」は、Revolabsのテクニカルサポートから設定変更を勧められた場合を除き、「Default」設定のままとしてください。

## Network Management (ネットワーク管理)

このページには、アクセスと管理をしやすくするためにExecutive Eliteのネットワーク情報がまとめられています。

「DHCP」セクションでは、Executive EliteベースステーションでのDHCPの有効/無効を切り替えることができます。DHCPが有効な場合、Executive Eliteベースステーションはお使いのDHCPサーバーにIPアドレスをリクエストします。

DHCPが無効な場合は、「IP」セクションで固定IPアドレスなどのネットワーク情報を設定します。DHCPが有効化されているとき、これらのフィールドはアクセス不能となり、値を変更できません。固定アドレスのフィールドに値が入力されていても、DHCPを有効にするとそのデータは削除されます。

ネットワークの情報を正しく入力してから変更内容を保存することが重要です。入力内容が間違っていると、IP接続経由でExecutive Eliteシステムにアクセスできなくなります。

**注:** ネットワークの設定が間違っていると、Eliteベースステーションがネットワークから切断されるため、LAN経由でWeb UIにアクセスできなくなり、さらにネットワークの設定を修正することもできなくなります。ただし、Web UIにはEliteベースステーションのフロントパネルにあるUSBポートからアクセスできます。マイクロUSBケーブルを使用して、Executive EliteベースステーションのフロントパネルのUSBポートにお使いのコンピューターを接続してください。必要に応じてコンピューターにドライバーソフトウェアがインストールされます。その後、フロントパネルLCDで該当するメニューを開き、ポップアップが表示されたらUSB接続用の固定IPアドレスを指定します。Webブラウザを開いてIPアドレスを入力したら、Web UIにログインします。これで、Executive EliteベースステーションをIPネットワークに接続するためのネットワークの設定を修正できます。

IP情報の下には、USB IP用の表があります。この表には、Eliteベースステーションの前面にあるUSBインターフェースの固定IPアドレスとサブネットが定義されます。

右上にあるのはネットワークタイムプロトコル（NTP）サーバー用の表です。EliteベースステーションがアクセスするNTPサーバーのリストを、この領域で指定します。

**注:** クラウドサーバーの要件として、Executive Eliteベースステーションには正しいシステム時刻設定が必要です。システム時刻が正しくないために、ここに一覧表示されたNTPサーバーに各システムが接続できない場合、システムはクラウドサーバーへのアクセスを拒否され、クラウドサーバー経由での管理ができなくなります。

## RF Spectrum Analyzer (RFスペクトルアナライザー)

Executive Eliteのリモートアンテナには、「RF Spectrum Analyzer」ページからアクセスできる内蔵RFスキャナーが搭載されているため、付近のRF環境の状態が色分けされたグラフで表示されます。



ページの左上隅にある「Start」ボタンをクリックすると、右から左にグラフが表示されます。このページに戻って「Stop」ボタンをクリックすれば、いつでもスキャンを停止できます。ただし、スキャンが停止してページがリダイレクトされると、情報はメモリからクリアされます。スキャン結果を保存するには、ページを閉じる前にスクリーンショットを取得し、任意の画像編集アプリケーションを使用して保存します。

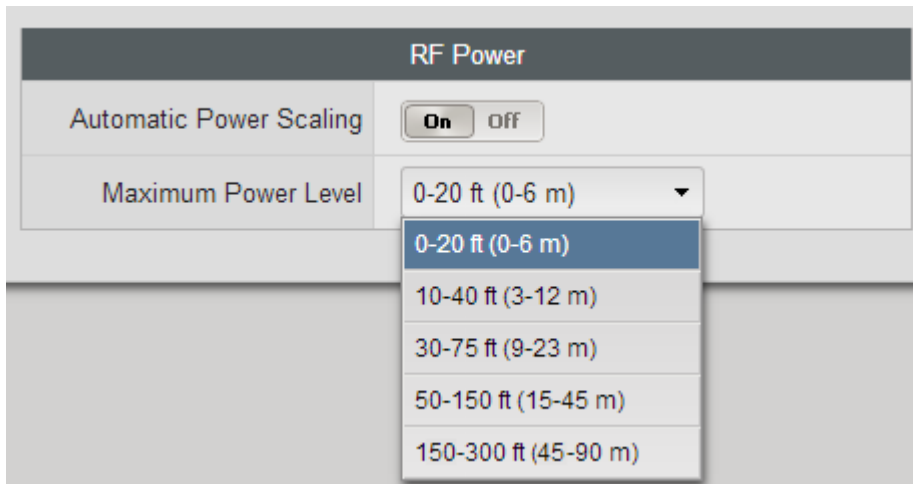
スキャンの実行中にページから移動した場合、Web UIの他のページを使用していたり、Web UIを閉じたりしても、アンテナまたはベースステーションが再起動されない限りはバックグラウンドでスキャンが実行されます。ただし、平均データおよびピークデータは計算されますが、データのグラフィック表示は行われません。

スキャンしたグラフの赤い部分は現在使用中の無線周波数の割合を表します。青い部分はノイズが存在しながらもExecutive Eliteシステムが利用できるRF空間を示します。緑の部分は空きRF空間です。RF環境のスナップショットがグラフに追加されるたび、平均値が計算されて隣の列に表示されます。これまでの活動状態のピークはその隣に表示されます。

グラフの右にある表は、活動状態の平均またはピーク時にExecutive Eliteの各システム音声モードに対してRF環境がサポートできる追加マイク本数を計算して表示しています。

このグラフは10分間の情報を表示するよう設定されていますが、スキャンの実行時間を長くすることができます。実行時間を長くすると、付近のRF環境の活動状態の平均値とピーク値の見積もり精度が向上します。RFスキャンを実行してもマイクの機能に影響はありません。すべてのマイクを使用している中でもスキャンは実行でき、音声のパフォーマンスにもまったく影響しません。

## RF Power (無線出力強度)



Executive Eliteのリモートアンテナからの発信出力強度は「RF Power」メニューから設定できます。無線出力強度を高くするほどマイクをリモートアンテナから遠く離すことができますが、付近にある他の無線デバイスに与える影響も大きくなります。

さまざまな無線出力強度設定値の中から、リモートアンテナとマイクの間での最大距離の推奨範囲をフィートとメートルで指定します。この設定では距離を指定しますが、室内に障害物があると、想定される最大距離に影響を受けます。無線出力強度を選択して接続をテストする場合は、この点に注意してください。

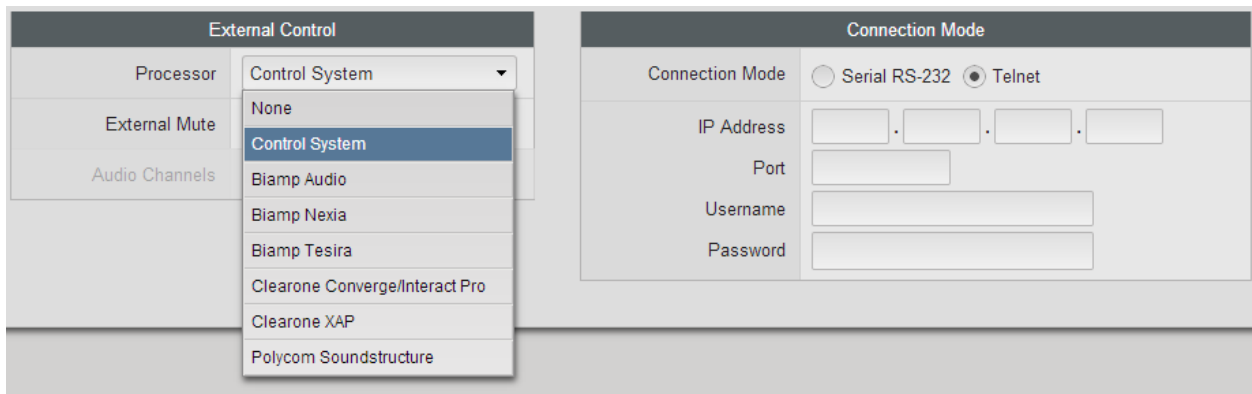
「Automatic Power Scaling」を使用すると、アンテナから届く無線電波をマイクで検出し、マイクの出力を変更できます。このようにして無線信号を制限することで、アンテナに近いマイクに対する無線周波数の影響を低減できます。高い通信出力強度設定（長距離）を必要とし、複数のExecutive Eliteシステムが含まれる環境では、「Automatic Power Scaling」が有効な場合があります。しかし「Automatic Power Scaling」は通常環境では推奨されませんので、販売店にご相談ください。

それぞれの無線に最適な設定を確認するため、さまざまな設定を試してみることをおすすめします。

## External Control (外部コントロール) 設定

「External Control」メニューを使用すると、ルームコントロールシステムまたはサポートされている外部DSP経由でExecutive Eliteの各種設定を管理できます。

外部DSPに接続されている場合、そのデバイスにはEliteの音声のミュート/ミュート解除ステータスの制御権が与えられます。サポートされている外部DSPは、下記に示す「External Mute」ドロップダウンから選択できます。



外部システムとの通信に使用する「Connection Mode」を選択します。「Serial」接続を選択した場合は、開いたウィンドウからボーレートを選択します。

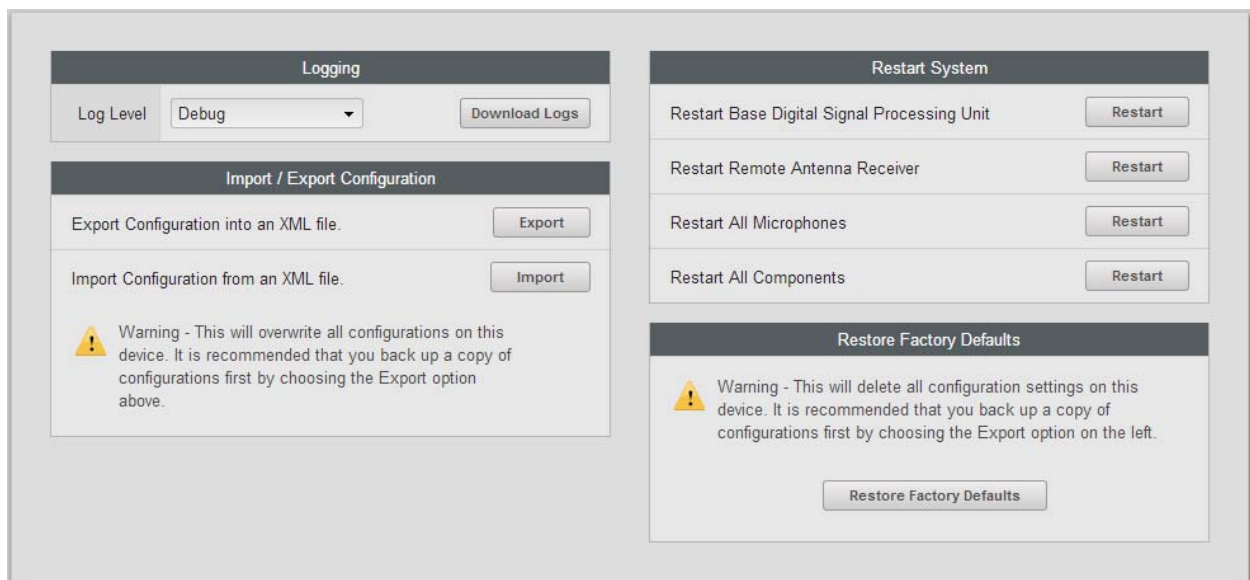
制御システムへの接続をセットアップするため、Eliteをサーバーまたはクライアントのいずれかに設定できます。「Telnet」選択時にExecutive Eliteシステムがクライアントになる場合は、IPアドレス、ログイン情報および制御システム（サーバー）のポート番号を入力する必要があります。

## Administration (管理)

「Administration」メニューでは、管理者のレベルでシステムを管理できます。

「Logging」では、システムのログをダウンロードし、詳細なシステム情報を確認できます。ドロップダウンメニューを使用して、取得するメッセージの最小ログレベルを選択できます。

「Import/Export Configuration」では、システム設定値のインポートとエクスポートができます。設定をインポートすると、選択中のExecutive Eliteシステムで現在有効な設定値がすべて上書きされます。インポートとエクスポートによって、Executive Eliteベースステーション同士で設定値を簡単に複製できます。



ページの右側では、Executive Eliteのコンポーネントを個別に再起動したり、まとめて再起動することができます。

「Restart Base Digital Signal Processing Unit」を使用すると、ベースステーションおよびリモートアンテナが再起動されます。

「Restart Remote Antenna Receiver」を使用すると、リモートアンテナだけが強制的に再起動されます。

「Restart All Microphones」を使用すると、リンク済みのすべてのマイクが強制的に再起動されます。

最後の「Restart All Components」を使用すると、ベースステーション、リモートアンテナおよびリンク済みのすべてのマイクが強制的に再起動されます。

「Restore Factory Defaults」では、ベースステーションのすべての設定値が工場出荷時設定（下記の表を参照）にリセットされます。「Reset Factory Defaults」をクリックするとシステム名、地域およびクラスターの情報を入力する初期セットアップウィザードが再度開始されます。工場出荷時設定に戻してもマイクのペアリング情報に影響はなく、マイクとシステムのペアリングは維持されます。マイクのペアリングが済んでいる場合はペアリング用のダイアログも開きません。

## 工場出荷時設定

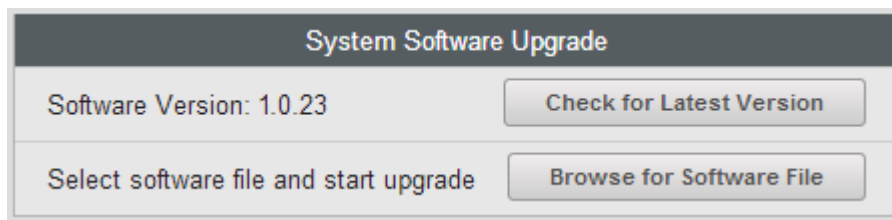
Web UIページ	機能	デフォルト設定
Mic Audio	プリアンプのゲイン (XLR方式のマイク)	0dB
Mic Audio	入力信号のトリム	0dB
Mic Audio	ハイパスフィルター - すべてのマイク	110Hz
Mic Audio	ローパスフィルター - すべてのマイク	None
Mic Audio	EQ (4バンド) - すべてのマイク	0dB
Mic Audio	EQの有効化 - すべてのマイク	Off
Mic Audio	出力レベル (マイク/ラインレベル) - すべてのマイク	Line Level
Mic Audio	アナログ出力ゲイン - すべてのマイク	0dB
Manage Groups	グループ	Default (他のグループはすべて削除)
Manage Groups	議長用マイク	None
Manage Groups	グループのミュートタイプ (Tabletop、Push-to-talk、Individual)	Individual
Manage Groups	起動時にミュート解除	Off
System Audio	レガシーモード	Off
System Audio	マイク音声 (SD、HD)	HD
System Audio	バックチャンネル音声 (None、SD、HD)	None
System Audio	バックチャンネル音声のソース (Analog、AVB)	Analog
Sys Config	システム名	設定値なし
Sys Config	クラスター名	設定値なし
Sys Config	パスワード	7386
Sys Config	Telnet接続の有効化/無効化	On
Sys Config	言語	English
Sys Config	国/地域	設定済みの値を維持
Sys Config	タイムゾーン	GMT
Sys Config	ベースステーションペアリングロック	Off
Sys Config	クロックソース (Local、Sync Bus、AVB、OTA)	Local
Sys Config	クロックモード (Internal、External、Auto)	Internal
Network Management	DHCP	On
Network Management	固定IPアドレス	設定値なし
Network Management	サブネットマスク	設定値なし

Web UIページ	機能	デフォルト設定
Network Management	デフォルトゲートウェイ	設定値なし
Network Management	DNS1	設定値なし
Network Management	DNS2	設定値なし
Network Management	USB固定IPアドレス	192.168.10.4
Network Management	USBサブネットマスク	255.255.255.0
Network Management	NTPサーバー（4箇所）	nist1-ny.ustiming.org nist1-atl.ustiming.org nist1-sj.ustiming.org
RF Power	自動（On/Off）	Off
RF Power	最大出力レベル	150 - 300 ft.
External Control Config	外部コントロールプロセッサ	None
External Control Config	外部ミュート（On/Off）	Off
External Control Config	音声チャンネル（1-8、9-16、17-24、25-32）	1-8
External Control Config	接続モード（Serial/Telnet）	Telnet
External Control Config	回線速度（9600、19200、38400、57600、115200）	115200
External Control Config	IPアドレス	設定値なし
External Control Config	ポート	設定値なし
External Control Config	ユーザー名	設定値なし
External Control Config	パスワード	設定値なし
Admin	ログレベルの設定 - ドロップダウン	Debug
Online Access	登録先	設定済みの値を維持
Online Access	オンラインアクセスの有効化/無効化	On
Front Panel	表示コントラスト	15
Mic Audio	プリアンプのゲイン（XLR方式のマイク）	0dB
Mic Audio	入力信号のトリム	0dB



## ソフトウェアのアップデート

「Software Upgrade」ページでは、Executive Eliteシステムのファームウェアを2通りの方法でアップデートできます。



1. クラウドサーバーに登録済みのExecutive Eliteシステムでは、「Check for Latest Version」ボタンを使用してrevoCloudサーバー上にある最新バージョンの製品ファームウェアを検索できます。サーバー上にある最新のリリースがExecutive Eliteシステムの現在のファームウェアバージョンと一致しない場合は、クラウド経由のアップデートが勧められます。Executive Eliteが登録されていない場合や、クラウドサーバーへのアクセスが無効化されている場合、この方法は使用できません。※日本は未対応です。
2. 「Browse for Software File」ボタンを使用する場合は、EliteのWeb UIからアクセスできるコンピューターまたはサーバーに、ソフトウェアが置かれている必要があります。ファイル参照画面からソフトウェアを選択すると、Executive Eliteシステムにそのバージョンがロードされます。

ファームウェアのアップデートについては、58ページを参照してください。

## シリアルコントロールプロセッサ（ルームコントロールインターフェース）

Executive Eliteベースステーションは、制御システム経由でのモニタリングおよび制御に対応しています。通信は、Executive Eliteのシリアルポート経由で行うか、IP接続を介して行います。設置環境に複数のExecutive Eliteベースステーションが含まれる場合は、各ユニットが制御システムに独自に接続して通信を行う必要があります。

制御システムAPIを使用するには、「External Control Configuration」設定、外部プロセッサのタイプおよび接続方法を、外部制御システムの設定に合うように定義する必要があります。

Executive Eliteは、コントロールインターフェースのサーバーモードまたはクライアントモードをサポートしています。接続先の制御システムとの適切な相互運用性を確保するには、正しいモードを選択する必要があります。

制御システムを使用する場合は、Web UIの「External Control Configuration」ページでExecutive Eliteを外部ミュートに設定できます。外部ミュートがONの場合は、マイクの状態がミュートであってもExecutive Eliteベースステーションは常に音声を渡します。この場合、設置環境の外部コンポーネントでミュートが実行されるようにするのはインストーラーの役割です。

**注:** Executive Eliteベースステーションには、制御システムとDSPの両方を同時に接続することはできません。制御システムとDSPを同時に使用する場合は、Executive Eliteベースステーションを制御システムに接続します。外部DSPも、制御システムから制御する必要があります。

### シリアルコマンドおよび戻り値

Executive Eliteベースステーションのシリアル文字列は、引数で始まり改行（CR）で終わります。コマンド文字列の構造は以下のとおりです。

```
<引数> <コマンド> [ch <チャンネル番号> <値>] <CR>
```

引数には「set」または「get」のいずれかを設定します。使用できるコマンドの一部を以下に示します。コマンドの完全な一覧については、『Executive Elite Control Interface』のドキュメントを参照してください。

特定のマイクチャンネルがコマンドの対象となる場合は、マイク番号の後に文字列「ch」を入れ、続けて送信する値を指定します（「set」コマンドの場合）。

マイクやExecutive Eliteベースステーションにおいて値が変化した場合は、必ず戻り値が発生します。戻り値は「val」で始まり、改行（CR）で終わります。Executive Eliteベースステーションにコマンド文字列を送信したことによる変化のほか、マイクやWebインターフェース、フロントパネルインターフェースにおける変更を含め、マイクやベースステーションにおけるあらゆる値の変化に対して、戻り値が発生します。戻り値の構造は以下のとおりです。

```
val <コマンド> ch <チャンネル番号> <値> <CR>
```

Executive Eliteのコマンドインターフェースは、Executive HDのコマンドインターフェースと後方互換性があるため、Executive HDシステムの制御用に作成された制御アプリケーションは、Executive Eliteシステムでも動作します。Executive Eliteシステムのコントロールインターフェースは、Executive HDのコマンドインターフェース設定と同様に設定しておく必要があります。

Executive Eliteのコマンドインターフェースは、追加機能や新規機能により、大幅拡張されています。追加された拡張コマンドは、Revolabs Executive HDシステムでは動作しません。

## Channel # (チャンネル番号)

シリアル文字列の<チャンネル番号>部分のオプションには、1～8（Executive Elite 8システムの場合）および1～4（Executive Elite 4システムの場合）を指定します。各ベースステーションで制御できるのは、それぞれ専用の8本または4本のマイクのみです。<チャンネル番号>は、Executive Eliteでマイクがペアリングされたチャンネル番号に対応しています。

<チャンネル番号>に「A」を入れると、すべてのマイクが制御されます。

### 例:

下記の文字列により、マイクチャンネル3がミュートグループの議長用マイクに設定されます。

コマンド: `set chairmanmic ch 3 1`      戻り値: `val chairmanmic ch 3 1`

下記の文字列により、Elite上のすべてのマイクがOFFになります。

コマンド: `set shutdownmic ch A`      戻り値: `val shutdownmic ch A`

下記の文字列でマイク5のバッテリー残量を取得すると、98%という戻り値が得られます。

コマンド: `get batterystatus ch 5`      戻り値: `val batterystatus ch 5 98`

## 文字列表:

下記の表に、Eliteのコマンドのいくつかを示します。Executive Elite向けにプログラミングすれば、古いExecutive HDのコマンドも新しいExecutive Eliteのコマンドもどちらも動作します。詳細についてはRevolabsインフォメーションセンターにお問い合わせください。

プロパティ/操作	コマンドフォーマット	説明	戻り値
audioquality	get audioquality	音声品質設定を取得します。 1: SD、2: HD	val audioquality <1/2>
audioquality	set audioquality <1/2>	音声品質を設定します。 1: SD、2: HD	val audioquality <1/2>
backchannel	get backchannel	バックチャンネル設定を取得します。 0: Off、1: On	val backchannel <0または1>
backchannel	set backchannel <0または1>	バックチャンネル設定を行います。 0: Off、1: On	val backchannel <0または1>
batterystatus	get batterystatus ch <チャンネル番号>	指定したマイクのバッテリー残量を取得します。	get batterystatus ch <チャンネル番号> <パーセント値>
chairmanmic	get chairmanmic ch <チャンネル番号>	指定したマイクの議長用設定を取得します。 戻り値: 0: 議長用以外 1: 議長用	val chairmanmic ch <チャンネル番号> <0または1>
chairmanmic	set chairmanmic ch <チャンネル番号> <0または1>	指定されたマイクの議長用設定を行います。 0: 議長用以外 1: 議長用	val chairmanmic ch <チャンネル番号> <0または1>
chairmanmicgroup	set chairmanmicgroup ch <チャンネル番号> <グループ名>	特定グループのマイクを議長用マイクに設定します。	val chairmanmicgroup ch <チャンネル番号> <グループ名>
chairmanmicgroup	get chairmanmicgroup <グループ名>	指定したグループの現在の議長用マイクを取得します。	val chairmanmicgroup <グループ名> <マイクID>
chairmanmute	get chairmanmute ch <チャンネル番号>	指定したチャンネルの議長用マイクによるミュート状態を取得します。 0: すべてのマイクでミュート解除 1: 一部のメンバーがミュート 2: すべてのマイクでミュート	val chairmanmute ch <チャンネル番号> <0または1>

プロパティ/操作	コマンドフォーマット	説明	戻り値
chairmanmute	set chairmanmute ch <チャンネル番号> <0、1、または2>	指定したチャンネルの議長用マイクによるミュート状態を設定します。 0: すべてのマイクでミュート解除 1: 一部のメンバーがミュート 2: すべてのマイクでミュート	val chairmanmute ch <チャンネル番号> <0、1、または2>
eq	get eq ch <チャンネル番号>	指定したチャンネルに関連付けられた4つのEQ値を取得します。	get eq ch <チャンネル番号> <eq1> <eq2> <eq3> <eq4>
eq	set eq ch <チャンネル番号> <eq1> <eq2> <eq3> <eq4>	指定したチャンネルに関連付けられた4つのEQ値を設定します。EQ値の範囲は-10~10dBです。	val eq ch <チャンネル番号> <eq1> <eq2> <eq3> <eq4>
groupmutetype	get groupmutetype <グループ名>	グループのミュートタイプを取得します。 0: 個別ミュート 1: テーブルトップミュート 2: プッシュアウトーク	val groupmutetype <グループ名> <0、1、または2>
groupmutetype	set groupmutetype <グループ名> <0、1、または2>	グループのミュートタイプを設定します。 0: 個別ミュート 1: テーブルトップミュート 2: プッシュアウトーク	val groupmutetype <グループ名> <0、1、または2>
groupstandbymode	get groupstandbymode <グループ名>	グループのスタンバイモードを取得します。	val groupstandbymode <グループ名> <0または1>
groupstandbymode	set groupstandbymode <グループ名> <0、1、または2>	グループのスタンバイモードを設定します。 1: スタンバイ開始 0: スタンバイ終了 2: 逆の状態に切り替え	val groupstandbymode default 1
legacymode	get legacymode	レガシーモードの設定値を取得します。 0: レガシーモードOff 1: レガシーモードOn	val legacymode <0または1>
mastermutemicgroup	get mastermutemicgroup <グループ名>	指定したグループのマスターミュート状態を取得します。 0: ミュート解除 1: ミュート	val mastermutemicgroup <グループ名> <0または1>
mastermutemicgroup	set mastermutemicgroup <グループ名> <0または1>	指定したグループのマスターミュート状態を設定します。 0: ミュート解除 1: ミュート	val mastermutemicgroup <グループ名> <0または1>
micgain	set micgain ch <チャンネル番号> <ゲイン値>	チャンネル番号1~8またはAのゲイン値をdB単位で設定します。	val micgain ch <チャンネル番号> <ゲイン値>

プロパティ/操作	コマンドフォーマット	説明	戻り値
micgain	get micgain ch <チャンネル番号>	チャンネル番号1~8またはAのゲイン値をdB単位で取得します。	val micgain ch <チャンネル番号> <ゲイン値>
micstandbymode	get micstandbymode ch <チャンネル番号>	チャンネル番号1~8またはAのマイクのスタンバイステータスを取得します。	val micstandbymode ch <チャンネル番号> <0または1>
micstandbymode	set micstandbymode ch <チャンネル番号> <0、1、または2>	マイクをスタンバイモードに設定します。 1: スタンバイ開始 0: スタンバイ終了 2: 逆の状態に切り替え	val micstandbymode ch <チャンネル番号> <0または1>
micstatus	get micstatus ch <チャンネル番号>	指定したマイクの現在のステータスを取得します。 0: Off 1: On 2: スタンバイ 3: 充電中 4: 圏外 5: 未ペアリング 6: ペアリング中 7: ペアリング解除中 8: 更新中	val micstatus ch <チャンネル番号> <ステータス>
mictype	get mictype ch <チャンネル番号>	指定したチャンネル番号のマイクのタイプを取得します。 0: ウェアラブル 1: 無指向性 2: 指向性 3: XLR 4: mini-XLR 5: グースネック 10: ハンドヘルド 11: 不明	val mictype ch <チャンネル番号> <タイプ>
mutestatus	get mutestatus ch <チャンネル番号>	マイクのミュートステータスを取得します。値はカンマ区切りの文字列です。 <ミュート>, <ミュートタイプ>, <ミュートロック>	val mutestatus ch <チャンネル番号> <ミュート>, <ミュートタイプ>, <ミュートロック>
regnotify	Regnotify	システム通知の受信を登録します。	regnotify
outputgain	get outputgain ch <チャンネル番号>	指定したチャンネルの出力ゲインを取得します。	val outputgain ch <チャンネル番号> <出力ゲイン>
outputgain	set outputgain ch <チャンネル番号> <出力ゲイン>	指定したチャンネルの出力ゲインを設定します。出力ゲインの範囲は-20~5dBです。	val outputgain ch <チャンネル番号> <出力ゲイン>

プロパティ/操作	コマンドフォーマット	説明	戻り値
outputlevel	get outputlevel ch <チャンネル番号>	チャンネルの出力レベルを取得します。 チャンネル番号は1~8またはAです。 0: マイクレベル 1: ラインレベル	val outputlevel ch <チャンネル番号> <0または1>
preampgain	get preampgain ch <チャンネル番号>	指定したチャンネルのプリアンプゲインを取得します。	val preampgain ch <チャンネル番号> <プリアンプゲイン>
preampgain	set preampgain ch <チャンネル番号> <プリアンプゲイン>	指定したチャンネルのプリアンプゲインを設定します。 プリアンプゲインの範囲は-20~0dBです。	val preampgain ch <チャンネル番号> <プリアンプゲイン>
pushtotalk	get pushtotalk <グループ名>	グループのプッシュトーク設定値を取得します。 1: プッシュトーク設定済み 0: 未設定	val pushtotalk <グループ名> <0または1>
pushtotalk	set pushtotalk <グループ名> <0、1、または2>	グループのプッシュトーク設定を行います。 1: プッシュトークを設定 0: 設定を解除 2: 逆の設定に切り替え	val pushtotalk <グループ名> <0、1、または2>
pushtotalkmic	get pushtotalkmic ch <チャンネル番号>	マイクのプッシュトーク設定を取得します。 1: プッシュトーク設定済み 0: 未設定	val pushtotalkmic ch <チャンネル> <0または1>
shutdownmic	shutdownmic ch <チャンネル番号>	マイクの電源を切ります。	shutdownmic ch <チャンネル番号>
tabletopmutegroup	get tabletopmutegroup <グループ名>	指定したグループのテーブルトップミュート状態を取得します。 0: テーブルトップミュート解除 1: テーブルトップミュート	val tabletopmutegroup <グループ名> <0または1>
tabletopmutegroup	set tabletopmutegroup <グループ名> <0または1>	指定したグループのテーブルトップミュート状態を設定します。 0: テーブルトップミュート解除 1: テーブルトップミュート	val tabletopmutegroup <グループ名> <0または1>
batt	get batt ch <チャンネル番号>	指定したチャンネルでマイクのバッテリー残量を取得します。	val batt ch <チャンネル番号> <1/2/3/4>
fp	set fp <0または1>	フロントパネルディスプレイのロックを切り替えます。 0: Off、1: On	val fp <0または1>

プロパティ/操作	コマンドフォーマット	説明	戻り値
gain	set gain ch <チャンネル番号> <0、1、2、または80~120>	入力ゲインを設定します。 値を80~100とするとゲインが-20~0dBに設定されます。 値を101~120とするとゲインが0dBに設定されます。 0: ゲインを0に設定 1: ゲインを+1ずつ変更 2: ゲインを-1ずつ変更	val gain ch <チャンネル番号> <0、1、2、または80~120>
gain	get gain ch <チャンネル番号>	指定したチャンネルの入力ゲインを取得します。	val gain ch <チャンネル番号> <80-120>
lock	set lock ch <チャンネル番号> <0または1>	マイクのロックのOn/Offを切り替えます。 0: Off, 1: On	val lock ch <チャンネル番号> <0または1>
lock	get lock ch <チャンネル番号>	指定したチャンネルのマイクのロック状態を取得します。	val lock ch <チャンネル番号> <0または1>
mute	set mute ch <チャンネル番号> <0または1>	指定したチャンネルのミュート状態を切り替えます。 0: ミュート解除, 1: ミュート	val mute ch <チャンネル番号> <0または1>
mute	get mute ch <チャンネル番号>	指定したチャンネルのミュート状態を取得します。	val mute ch <チャンネル番号> <0、1、2、3、4、または5>

## 通知:

Executive Eliteコマンドの「regnotify」を実行すると、通知が有効化されます。

通知	通知フォーマット	説明
mute_group_change	notify mute_group_change <グループ名> <操作>	指定したグループに影響する変更が実施されたことをクライアントに通知します。操作には「add」（追加）、「del」（削除）および「ren」（名前変更）があります。
mute_group_member_change	notify mute_group_member_change <グループ名> bid <ボックスID> active <0または1> type <タイプ> index <マイクインデックス>	マイクのグループが変更されたことをクライアントに通知します。
mute_group_mute_type_change	notify mute_group_mute_type_change <グループ名> <ミュートタイプ>	指定したミュートグループのミュートタイプが変更されたことをクライアントに通知します。 0: 個別ミュート 1: テーブルトップミュート 2: プッシュツートーク
set_mute_status	notify set_mute_status ch<チャンネル番号> <ミュート>, <ミュートタイプ>, <ミュートロック>	指定したマイクのミュートステータスが変更されたことをクライアントに通知します。 <ミュート>の値は次のとおりです。 0: ミュート解除, 1: ミュート <ミュートタイプ>の値は次のとおりです。 0: 個別ミュート 1: テーブルトップミュート 2: プッシュツートークミュート <ミュートロック>の値は次のとおりです。 0: ロック解除済み, 1: ロック済み



通知	通知フォーマット	説明
startup_unmute_group	notify startup_unmute_group <グループ名> <状態>	指定したミュートグループの「Unmute at Startup」設定が変更されたことをクライアントに通知します。 1: 起動時にミュート解除 0: 起動時にミュート
status_change_antenna_link	notify status_change_antenna_link <ステータス>	アンテナのリンクステータスが変更されたことをクライアントに通知します。 0: リンク解除、1: リンク済み
status_change_battery	notify status_change_battery ch <チャンネル番号> <パーセント値>	指定したマイクのバッテリー残量が増減したことをクライアントに通知します。
status_change_mic	notify status_change_mic ch <チャンネル番号> <ステータス>	指定したマイクのステータスが変更されたことをクライアントに通知します。 0: Off 1: On 2: スタンバイ 3: 充電中 4: 圏外 5: 未ペアリング 6: ペアリング中 7: ペアリング解除中 8: 更新中
status_group_mute	notify status_group_mute <グループ名> <グループのミュート状態>	指定したグループのミュートステータスが変更されたことをクライアントに通知します。 8: グループのミュート 0: グループのミュート解除
Batt	val batt	マイクのバッテリー残量。 1: 25%、2: 50%、 3: 75%、4: 100%
Mute	val mute...	マイクのミュート状態。 0: ミュート解除 1: セルフミュート 2: ミュート 3: マイクOFF 4: マイク圏外 5: マイク充電中
Type	val type...	マイクのタイプ。 1: ラベル (ウェアラブル) 2: 無指向性テーブルトップ 3: 指向性テーブルトップ 4: XLRアダプター 5: カントリーマンアダプター

## ファームウェアの更新

Executive EliteファームウェアのアップデートにはWeb UIの「Software Upgrade」ページを使用します。そのシステムに接続されたコンピューターからアクセスできるアップデートソフトウェアを使用して、Web UIからアップデートできます（49ページ参照）。アップデートソフトウェアは、Revolabs Webサイトのサポートセクションから入手できます。

ファームウェアアップデートを行うと、Executive Eliteシステム上のすべてのペアリング済みマイクがアップデートされます。

- 「Software Download」のページには、ベースステーションのアップデート状況、続けてアンテナのアップデート状況の順序で表示されます。
- このアップデートが正常に行われると、リンク済みマイクのアップデートがワイヤレスで開始されます。リンクされていないマイクのアップデートは、そのマイクが次にリンクしたときに開始されます。
- チャージャーベースに置かれているマイクのアップデートは、マイクがアップデートされたEliteユニットとペアリングされている場合にのみ行われます。
- ベースステーションおよびアンテナのアップデートには10分ほどかかります。
- マイクのアップデートは、「System Audio」の設定に応じて6分ほどかかることがあります。バックチャンネル音声が無効な音声モードの場合はマイクの更新時間が長くなります。

## マイク

Revolabs Executive Eliteでは、ワイヤレスマイクおよびアダプターを各種用意しています。

- Revolabs Eliteウェアラブルマイク「Elite MIC-WR」
- Revolabs Elite無指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-OM」
- Revolabs Elite指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-DR」
- Revolabs Eliteグースネックマイク「Elite MIC-GN6」(約15cm)
- Revolabs Eliteグースネックマイク「Elite MIC-GN12」(約30cm)
- ダイナミックマイク用Revolabs Elite XLRアダプター「Elite MIC-XLR」
- コンデンサマイク用Revolabs Elite TA4アダプター (ミニXLRアダプター) 「Elite MIC-TA4」

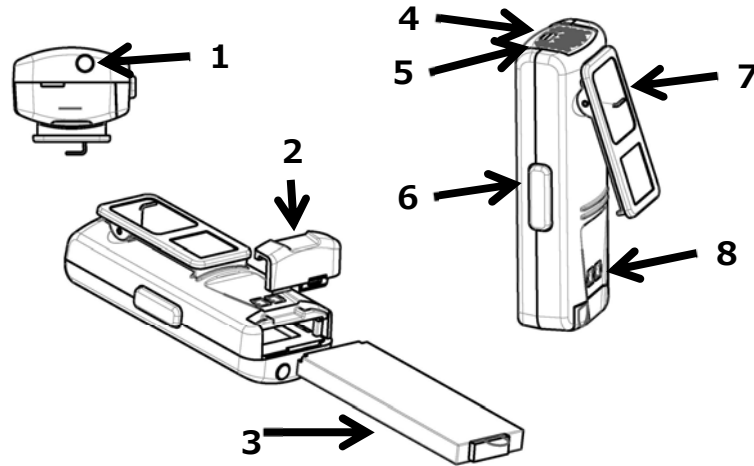
**注:** マイクを使用するには、先にベースステーションおよびリモートアンテナとペアリングしておく必要があります。各マイクには、ベースステーション上で固有のチャンネルが割り当てられます。マイクのペアリング方法については、後述するペアリング手順を参照してください。

**注:** 交換バッテリーには、必ずRevolabs正規の充電式バッテリーを使用してください。非正規のバッテリーや充電式バッテリーを使用すると、マイクの性能に影響が出るおそれがあります。また、マイク、ユーザーまたは環境に害をもたらす可能性があります。非正規のバッテリーを使用した場合はマイクの保証が無効になります。バッテリー交換の際は、バッテリーが正しい向きで装着されていることを確認してください。

**注:** ワイヤレスマイクをチャージャーから取り外す際、ワイヤレスマイクはアンテナとペアリングを試み、ワイヤレスマイクのLEDが緑色点滅もしくは点灯（設定に依存）になると使用可能になります。システムのワイヤレスマイクの本数が多い場合、使用可能になるまでに時間がかかる場合があります（最大2分程度）。

## Eliteウェアラブルワイヤレスマイク「Elite MIC-WR」

Revolabs Eliteウェアラブルワイヤレスマイク「Elite MIC-WR」(下図を参照)は、シャツや下襟、ブラウス、もしくはストラップに取り付けて使用できます。このマイクにより、ユーザーは会議システムやオーディオシステムとの間で高品質な音声を双方向通信できます。

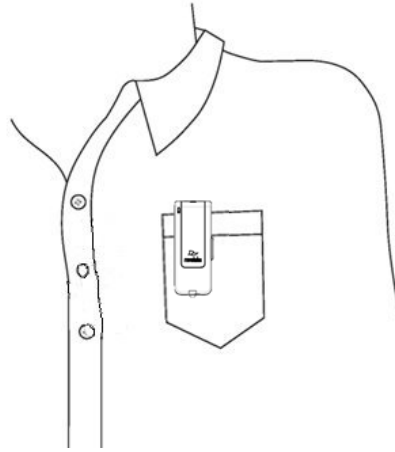


1. イヤホンジャック: 2.5mmのイヤホンプラグに対応しています。
2. バッテリーカバー: マイクの後方に向かって押すとバッテリー収納部が開きます。
3. リチウムイオン充電式バッテリー: 取り出して交換するときはバッテリーカバーを開きます。
4. ミュートLED: ミュート、ミュート解除およびペアリングのステータスを視覚的に表示します。
5. 充電ステータスLED: シールドの下にあるLEDが充電量の低下を警告します。残り充電残量が約2時間になると、LEDが黄色になります。LEDが赤色になった場合、充電残量は約1時間です。
6. ミュートボタン: マイクをミュート、ミュート解除またはペアリングするときに押します。
7. クリップ: シャツ、下襟、ブラウスまたはストラップに取り付ける際に使用します。
8. 充電用コネクタ: Eliteチャージャーベースの充電用ピンに接続します。

Revolabs Eliteウェアラブルワイヤレスマイク「Elite MIC-WR」をチャージャーベースから取り外すと電源がONになります。マイク取り付け時のノイズを抑えるため、取り付けや取り外しの際はマイクをミュートにするようにしてください。

## Eliteウェアラブルワイヤレスマイク「Elite MIC-WR」を使用する

1. マイクをチャージャーベースから外します。
2. 胸骨のすぐ上、口から15～30cmの辺りで衣服やストラップにマイクを取り付けます。マイクがしっかり留まっていることを確認してください。Eliteウェアラブルワイヤレスマイク「Elite MIC-WR」は無指向性のマイクエレメントを使用しているため、マイクが口の方に向いているかどうかを気にする必要はありません。



3. マイクの位置が決まったら、ミュートボタンを押して離すとそのマイクに定義されたミュート動作に応じてマイクがミュート解除またはミュートされます（それぞれ緑色または赤色のLED点滅で確認できます）。音量が小さすぎる場合はマイクをミュートして、口に近くなるように位置を調整してから再度ミュートを解除します。
4. マイクをOFFにするには、マイクユニットをチャージャーベースに戻すか、またはLEDが赤色の連続点灯になるまでミュートボタンを10秒ほど長押ししてから離します。Web UIまたはルームコントロールインターフェースからマイクをOFFにすることもできます。プッシュトークモードの場合はミュートボタンでマイクをOFFにできないため、注意してください。

マイクがリモートアンテナの圏外（無線信号強度設定に応じてリモートアンテナから90m以上の場所）に移動した場合は、接続が解除され、LEDが赤色、黄色、緑色、黄色に点滅してマイクがミュートになります。

15秒経つとマイクからピープ音が鳴り、ユーザーがマイクを会議室に戻すまで30秒ごとに鳴り続けます。マイクが15分以内にリモートアンテナの圏内に戻った場合は、自動的に接続が再度確立されて元の状態に戻り、ピープ音が止まります。戻されなかった場合は、マイクはOFFになります。

## ウェアラブルマイクイヤホンの音量を調整する

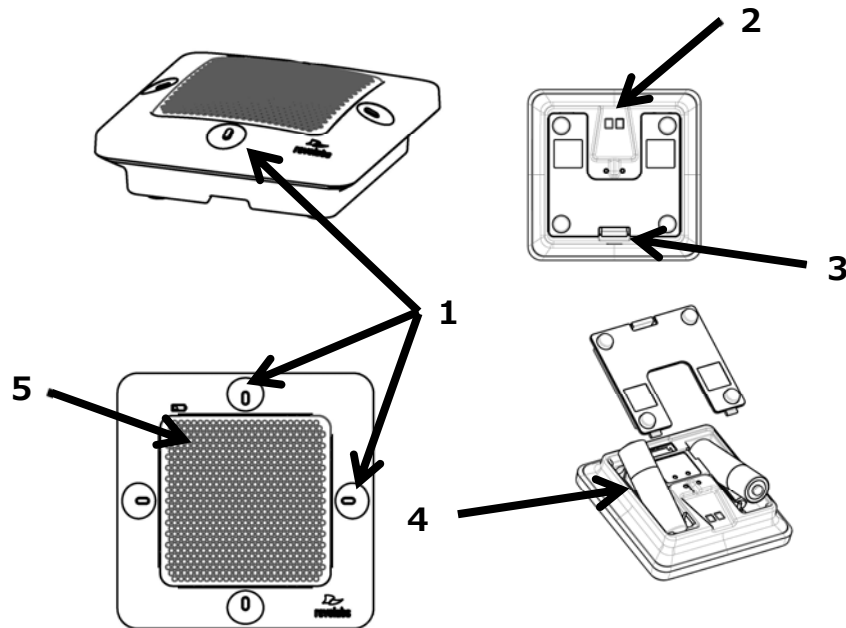
ウェアラブルマイクのイヤホン音量を変えるには、イヤホンケーブルのダイヤルを使います。



図に示すとおりにダイヤルを回すと音量が上下します。イヤホンケーブルを固定するときは、付属の衣服用クリップを使用してください。

## Elite無指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-OM」

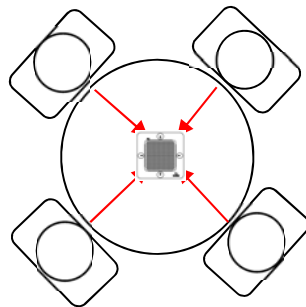
Elite無指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-OM」を使用すると、1台のマイクで複数の会議参加者の音声を集音できます。



1. ミュート用タッチ領域とLED: マイクをミュート、ミュート解除またはペアリングするときにタッチします。LEDはミュート、ミュート解除およびペアリングのステータスを視覚的に表示します。無指向性マイクには、マイクの各側面に1つずつ、計4つのミュート用タッチ領域とステータスLEDが付けられています。どのタッチ領域を使用してもマイクをミュートおよびミュート解除できます。
2. 充電用コネクタ: Eliteチャージャーベースまたはクロスオーバーアダプターの充電用ピンに接続します。
3. バッテリーカバーラッチ: このラッチを使用してバッテリーカバーを開きます。
4. 充電式バッテリー: 交換バッテリーには必ずNiMH 2,000mA充電式バッテリーを使用してください。充電式でないバッテリーや、充電式バッテリーでもタイプが異なるものや容量の小さいものを使用すると、マイクの性能に影響が出るおそれがあります。また、マイク、ユーザーまたは環境に害をもたらす可能性があります。非正規のバッテリーを使用した場合はマイクの保証が無効になる場合があります。バッテリー交換時は、マイクのバッテリーボックス内に記載された表示に従い、必ず正しい向きでバッテリーを装着してください。
5. 充電ステータスLED: シールドの下にあるLEDが充電量の低下を警告します。バッテリー残量が4時間になるとLEDが黄色になり、残り2時間になると赤色になります。

## Elite無指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-OM」を使用する

1. マイクをチャージャーベースから外します。マイクが自動的にONになります。ベースステーションの設定に応じて、マイクはミュート解除状態またはミュート状態で起動します。ミュート解除状態では緑色、ミュート状態では赤色にLEDが点滅します。
2. 無指向性テーブルトップマイクは、話者から0.6～1.5m離してテーブルの中央に置きます。この際、マイクは全方向から集音するため、向きを気にする必要はありません。マイクの位置はできるだけ話者に近くなるようにしてください。ただし、机の上の物や紙などで遮られるような場所は避けます。また、エコーの原因になるため、音声/ビデオ会議システムのスピーカーに近づけすぎないようにしてください。マイクは必ずゴム脚を下にして平らな面の上に置いてください。



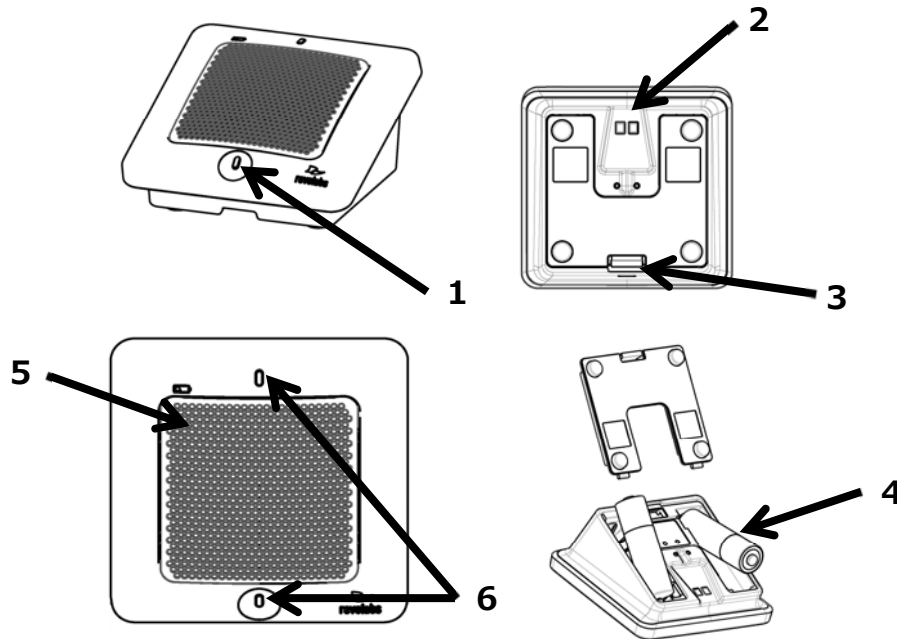
3. 上記の図を参考にマイクをテーブルの上に置き、4箇所のミュート領域のいずれかにタッチしてマイクをミュートまたはミュート解除します（それぞれ緑色または赤色のLED点滅で確認できます）。プッシュトークモードでは、ミュート領域にタッチしてそのまま触れていると、マイクのミュートが解除されます。タッチ領域から指を離すとマイクがミュートされます。
4. マイクをOFFにするには、チャージャーベースにマイクを戻すか、またはLEDが赤色の連続点灯になるまでミュート領域のいずれかを10秒ほど長押ししてから指を離します。Web UIまたはルームコントロールインターフェースからマイクをOFFにすることもできます。プッシュトークモードの場合は、ミュート領域でマイクをOFFにできません。

マイクがリモートアンテナから離れすぎた場合（無線信号強度設定に応じてリモートアンテナから90m以上）は、接続が解除され（LEDが赤色、黄色、緑色、黄色に点滅して）マイクがミュートになります。15秒経つとマイクからビープ音が鳴り、圏外であることを示すため、30秒ごとに鳴り続けます。

マイクをリモートアンテナに近づけると、自動的に再接続されて元の状態に戻り、ビープ音が止まります。そうしない場合はビープ音が繰り返され、15分ほどでマイクの電源が切れます。

## Elite指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-DR」

Elite指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-DR」（下図参照）は、会議室のテーブルに1～3人がいる場合に集音範囲が最適となるよう設計されています。

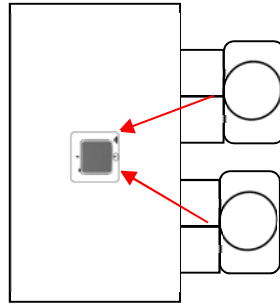


1. ミュート用タッチ領域: マイクをミュート、ミュート解除またはペアリングするときにタッチします。指向性マイクのミュート用タッチ領域は1箇所、スピーカー近くの縁の上にあります。
2. 充電用コネクタ: Eliteチャージャーベースまたはクロスオーバーアダプターの充電用ピンに接続します。
3. バッテリーカバーラッチ: このラッチを使用してバッテリーカバーを開きます。
4. 充電式バッテリー: 交換バッテリーには必ずNiMH 2,000mA充電式バッテリーを使用してください。充電式でないバッテリーや、充電式バッテリーでもタイプが異なるものや容量の小さいものを使用すると、マイクの性能に影響が出るおそれがあります。また、マイク、ユーザーまたは環境に害をもたらす可能性があります。非正規のバッテリーを使用した場合はマイクの保証が無効になる場合があります。バッテリー交換時は、マイクのバッテリーボックス内に記載された表示に従い、必ず正しい向きでバッテリーを装着してください。
5. 充電ステータスLED: シールドの下にあるLEDが充電量の低下を警告します。バッテリー残量が4時間になるとLEDが黄色になり、残り2時間になると赤色になります。
6. ステータスLED: ミュート、ミュート解除およびペアリングのステータスを視覚的に表示します。



## Elite指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-DR」を使用する

1. マイクをチャージャーベースから外します。マイクが自動的にONになります。ベースステーションの設定に応じて、マイクはミュート解除状態またはミュート状態で起動します。ミュート解除状態では緑色、ミュート状態では赤色にLEDが点滅します。
2. 指向性テーブルトップマイクは、金属製のカバーが話者に向けた状態でテーブル上に置き、マイクと話者との距離が0.6～2mの範囲に収まるようにしてください。この指向性マイクの集音パターンはマイク正面から左右に約65°です。置き方は下図を参照してください。



マイクはできるだけ話者に近づけて置いてください。ただし、机の上の物や紙などで遮られるような場所は避けます。また、エコーの原因になるため、音声/ビデオ会議システムのスピーカーに近づけすぎないようにしてください。マイクは横向きにせず、必ずゴム脚を下にして置くようにしてください。

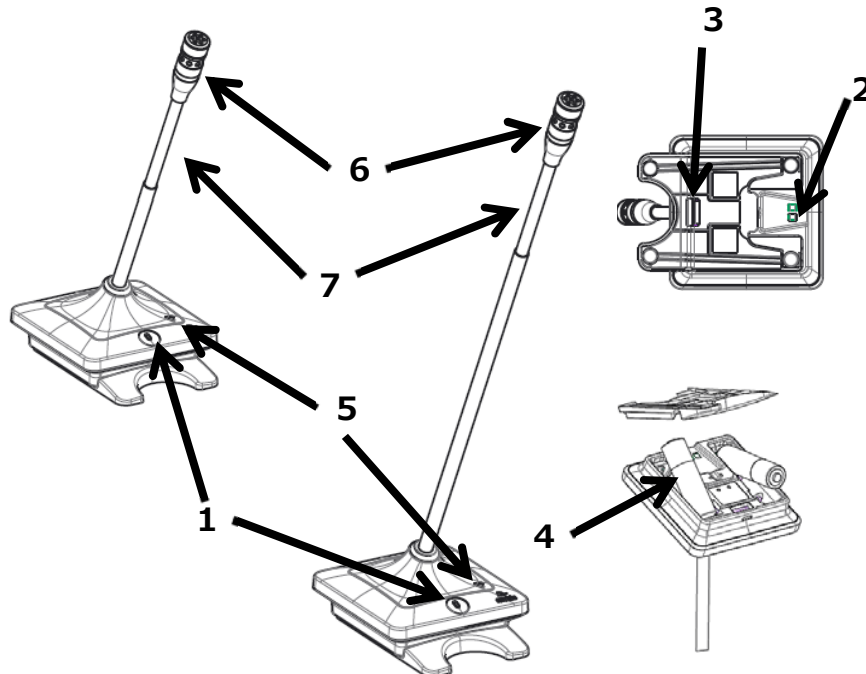
3. 上記の図を参考にマイクをテーブルの上に置き、ミュート領域にタッチしてマイクをミュートまたはミュート解除します（それぞれ緑色または赤色のLED点滅で確認できます）。プッシュトークモードでは、ミュート領域にタッチしてそのまま触れていると、マイクのミュートが解除されます。タッチ領域から指を離すとマイクがミュートされます。
4. マイクをOFFにするには、チャージャーベースにマイクを戻すか、またはLEDが赤色の連続点灯になるまでミュート用タッチ領域を10秒ほど長押ししてから指を離します。Web UIまたはルームコントロールインターフェースからマイクをOFFにすることもできます。プッシュトークモードの場合は、ミュート領域でマイクをOFFにできません。

マイクがリモートアンテナから離れすぎた場合（無線信号強度設定に応じて90m以上）は、接続が解除され（LEDが赤色、黄色、緑色、黄色に点滅して）マイクがミュートになります。15秒経つとマイクからビーブ音が鳴り、圏外であることを示すため、30秒ごとに鳴り続けます。

マイクをリモートアンテナに近づけると、自動的に再接続されて元の状態に戻り、ビーブ音が止まります。そうしない場合はビーブ音が繰り返され、15分ほどでマイクの電源が切れます。

## Eliteブースネックマイク「Elite MIC-GN6」および「Elite MIC-GN12」

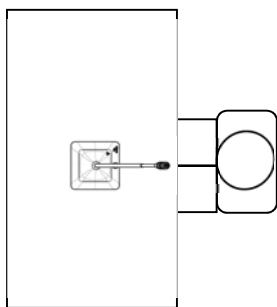
Eliteブースネックマイク「Elite MIC-GN6」（ブースネック長約15cm）および「Elite MIC-GN12」（ブースネック長約30cm）（下図参照）は、会議や討論会で、参加者ごとに専用のマイクが割り当てられている場合に集音範囲が最適となるよう設計されています。



1. ミュート用タッチ領域とLED: マイクをミュート、ミュート解除またはペアリングするときにタッチします。LEDはミュート、ミュート解除およびペアリングのステータスを視覚的に表示します。
2. 充電用コネクター: Eliteチャージャーベースまたはクロスオーバーアダプターの充電用ピンに接続します。
3. バッテリーカバーラッチ: このラッチを使用してバッテリーカバーを開きます。
4. 充電式バッテリー: 交換バッテリーには必ずNiMH 2,000mA充電式バッテリーを使用してください。充電式でないバッテリーや、充電式バッテリーでもタイプが異なるものや容量の小さいものを使用すると、マイクの性能に影響が出るおそれがあります。また、マイク、ユーザーまたは環境に害をもたらす可能性があります。非正規のバッテリーを使用した場合はマイクの保証が無効になる場合があります。バッテリー交換時は、マイクのバッテリーボックス内に記載された表示に従い、必ず正しい向きでバッテリーを装着してください。
5. 充電ステータスLED: 充電量の低下を警告します。
6. 補助LED: ミュート、ミュート解除およびペアリングのステータスを視覚的に表示します。
7. フレキシブルネック: マイクを必要な方向に向けるときに使用します。

## Eliteグースネックマイク「Elite MIC-GN6」または「Elite MIC-GN12」を使用する

1. マイクをチャージャーベースから外します。マイクが自動的にONになります。ベースステーションの設定に応じて、マイクはミュート解除状態またはミュート状態で起動します。ミュート解除状態では緑色、ミュート状態では赤色にLEDが点滅します。
2. グースネックテーブルトップワイヤレスマイクを話者に向けた状態でテーブル上に置きます。マイクと話者との距離は45～60cmの範囲に収まるようにしてください。この指向性マイクの集音パターンはカーディオイドで、話者に向かってパターンが「集束」します。マイクはできるだけ話者に近づけて置いてください。ただし、机の上の物や紙などで遮られるような場所は避けます。また、エコーの原因になるため、音声/ビデオ会議システムのスピーカーに近づけすぎないようにしてください。マイクは必ずゴム脚を下にして、平らな面の上に立てて置いてください。置き方は下図を参照してください。



3. 上記の図を参考にマイクをテーブルの上に置き、ミュート領域にタッチしてマイクをミュートまたはミュート解除します（それぞれ緑色または赤色のLED点滅で確認できます）。プッシュトークモードでは、ミュート領域にタッチしてそのまま触れていると、マイクのミュートが解除されます。タッチ領域から指を離すとマイクが再度ミュートされます。
4. マイクをOFFにするには、チャージャーベースにマイクを戻すか、またはLEDが赤色の連続点灯になるまでミュート用タッチ領域を10秒ほど長押ししてから指を離します。Web UIまたはルームコントロールインターフェースからマイクをOFFにすることもできます。プッシュトークモードの場合は、ミュート領域でマイクをOFFにできません。

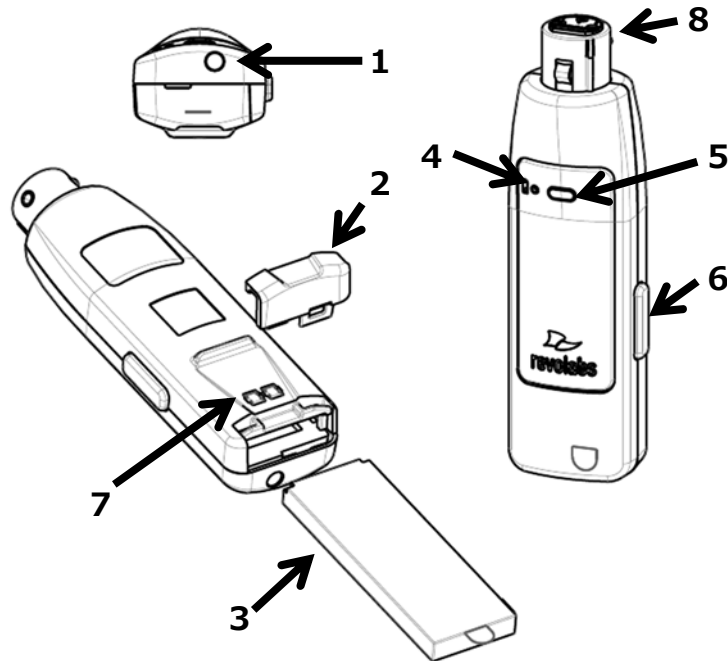
マイクがリモートアンテナから離れすぎた場合（無線信号強度設定に応じて90m以上）は、接続が解除され（LEDが赤色、黄色、緑色、黄色に点滅して）マイクがミュートになります。15秒経つとマイクからビープ音が鳴り、圏外であることを示すため、30秒ごとに鳴り続けます。

マイクをリモートアンテナに近づけると、自動的に再接続されて元の状態に戻り、ビープ音が止まります。そうしない場合はビープ音が繰り返され、15分ほどでマイクの電源が切れます。

## ダイナミックマイク用Revolabs Elite XLRアダプター「Elite MIC-XLR」

ダイナミックマイク用Revolabs Elite XLRアダプター

「Elite MIC-XLR」を使用すると、Executive Eliteシステムでハンドヘルドのダイナミックマイクを使用できるようになります。



1. イヤホンジャック: 2.5mmのイヤホンプラグに対応しています。
2. バッテリーカバー: マイクの後方に向かって押すとバッテリー収納部が開きます。
3. リチウムイオン充電式バッテリー: 取り出して交換するときはバッテリーカバーを開きます。交換バッテリーには、必ずRevolabs正規の充電式バッテリーを使用してください。
4. 充電ステータスLED: 充電量の低下を警告します。残り充電残量が約2時間になると、LEDが黄色になります。LEDが赤色になった場合、充電残量は約1時間です。
5. ミュートLED: ミュート、ミュート解除およびペアリングのステータスを視覚的に表示します。
6. ミュートボタン: マイクをミュート、ミュート解除またはペアリングするときに押します。
7. 充電用コネクター: Eliteチャージャーベースの充電用ピンに接続します。
8. XLRコネクター: XLRオスコネクター。ハンドヘルドのダイナミックXLRマイクを接続します。

## Elite XLRアダプター「Elite MIC-XLR」を使用する

1. ワイヤレスアダプターをチャージャーベースから外します。
2. ハンドヘルドのダイナミックマイクの安全上の注意とユーザー情報に従って、アダプターにマイクを取り付けます。
3. 使用する位置にマイクを配置したらミュートを解除し、Web UIの「Microphone Management」ページに移動します。XLRアダプターがペアリングされると、アダプターの列にはプリアンプゲインの設定が表示されます。このスライダーを使用すると、さまざまな種類のマイクをExecutive Eliteシステムに統合できます。S/N比が最も高くなるように、クリッピングが発生しない範囲で最も大きい設定値をプリアンプで選択します。
4. アダプターのミュートボタンを押すと、Web UIでアダプターに定義したミュート動作に基づいてマイクがミュートまたはミュート解除されます（それぞれ緑色または赤色のLED点滅で確認できます）。プッシュトゥークモードでは、ミュートボタンを押してそのまま触れていると、マイクのミュートが解除されます。ミュートボタンから指を離すとマイクが再度ミュートされます。
5. XLRアダプターをOFFにするには、ユニットをチャージャーベースに戻すか、またはLEDが赤色の連続点灯になるまでミュートボタンを10秒ほど長押ししてから離します。Web UIまたはルームコントロールインターフェースからアダプターをOFFにすることもできます。プッシュトゥークモードの場合は、ミュートボタンでアダプターをOFFにできません。

**注:** XLRアダプターにハンドヘルドマイクが装着されている場合は、アダプターをチャージャーベースに置かないでください。チャージャーベースにはアダプター単体を置いてください。

**注:** XLRアダプターはファンタム電源を供給しません。アダプターではハンドヘルドのダイナミックマイクのみを使用してください。

アダプターがリモートアンテナから離れすぎた場合（無線信号強度設定に応じてリモートアンテナから90m以上）は、接続が解除され（LEDが赤色、黄色、緑色、黄色に点滅して）マイクがミュートになります。15秒経つとアダプターからビープ音が鳴り、圏外であることを示すため、30秒ごとに鳴り続けます。

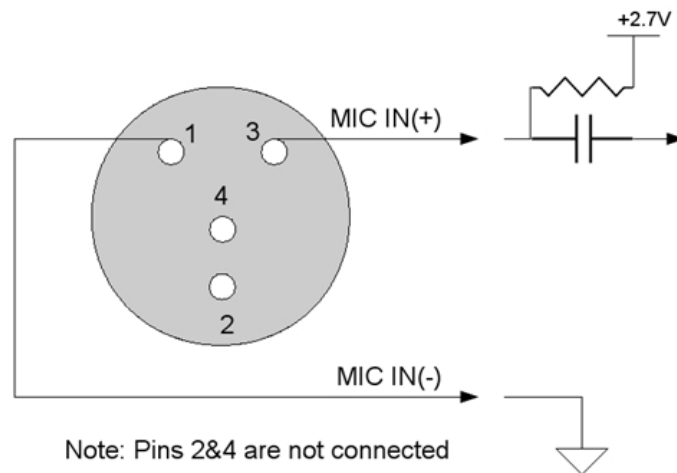
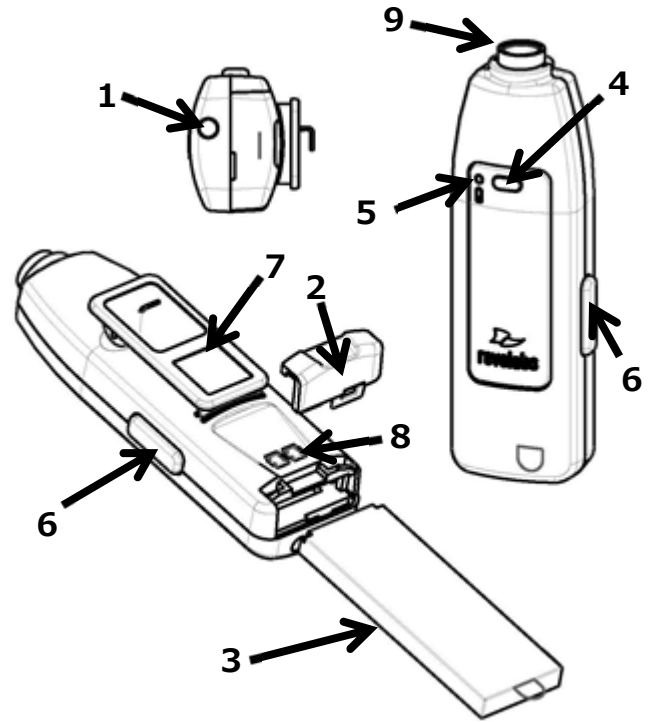
アダプターをリモートアンテナに近づけると、自動的に再接続されて元の状態に戻り、ビープ音が止まります。そうしない場合はビープ音が繰り返され、15分ほどでアダプターの電源が切れます。

## Revolabs EliteTA4アダプター（ミニXLRアダプター）

### 「Elite MIC-TA4」（ラベルマイクおよびイヤークセットマイク用）

Revolabs Elite TA4アダプター（ミニXLRアダプター）「Elite MIC-TA4」を使用すると、Executive Eliteシステムで小型のラベルマイクまたは耳かけ式マイクを使用できるようになります。

1. イヤホンジャック: 2.5mmのイヤホンプラグに対応しています。
2. バッテリーカバー: マイクの後方に向かって押すとバッテリー収納部が開きます。
3. リチウムイオン充電式バッテリー: 取り出して交換するときはバッテリーカバーを開きます。交換バッテリーには、必ずRevolabs正規の充電式バッテリーを使用してください。
4. 充電ステータスLED: 充電量の低下を警告します。残り充電残量が約2時間になると、LEDが黄色になります。LEDが赤色になった場合、充電残量は約1時間です。
5. ミュートLED: ミュート、ミュート解除およびペアリングのステータスを視覚的に表示します。
6. ミュートボタン: マイクをミュート、ミュート解除またはペアリングするときに押します。
7. クリップ: 衣服やベルトにアダプターを取り付けるときに使用します。
8. 充電用コネクタ: Eliteチャージャーベースの充電用ピンに接続します。
9. TA4（ミニXLR）コネクタ: ラベルマイクや耳かけ式マイクをTA4アダプターに接続するときに使用します。TA4アダプターの配線については、次の図を参照してください。



**注:** TA4アダプターの配線と互換性のあるマイクのみを使用してください。

**注:** TA4アダプターは2.7Vのファンタム電源を供給します。

### Revolabs Elite TA4アダプター（ミニXLRアダプター）「Elite MIC-TA4」を使用する

1. ミニXLRアダプターをチャージャーベースから外します。
2. アダプターの最上部にマイクを取り付け、衣服またはベルトの端にクリップで留めます。マイクとアダプターがしっかり留まっていることを確認してください。
3. 使用する位置にマイクを配置したらミュートを解除し、Web UIの「Microphone Management」ページに移動します。TA4アダプターがペアリングされると、アダプターの列にはプリアンプゲインの設定が表示されます。このスライダーを使用すると、さまざまな種類のマイクをExecutive Eliteサウンドシステムに統合できます。S/N比が最も高くなるように、クリッピングが発生しない範囲で最も大きい設定値をプリアンプで選択します。
4. アダプターのミュートボタンを押すと、Web UIでアダプターに定義したミュート動作に基づいてマイクがミュートまたはミュート解除されます（それぞれ緑色または赤色のLED点滅で確認できます）。プッシュトゥークモードでは、ミュートボタンを押してそのまま触れていると、マイクのミュートが解除されます。ミュートボタンから指を離すとマイクが再度ミュートされます。
5. ミニXLRアダプターをOFFにするには、ユニットをチャージャーベースに戻すか、またはLEDが赤色の連続点灯になるまでミュートボタンを10秒ほど長押ししてから離します。Web UIまたはルームコントロールインターフェースからアダプターをOFFにすることもできます。プッシュトゥークモードの場合は、ミュートボタンでアダプターをOFFにできません。

**注:** TA4アダプターにハンドヘルドマイクが装着されている場合は、アダプターをチャージャーベースに置かないでください。チャージャーベースにはアダプター単体を置いてください。

アダプターの位置がリモートアンテナから離れすぎた場合（無線信号強度設定に応じてリモートアンテナから90m以上）は、接続が解除され（LEDが赤色、黄色、緑色、黄色に点滅して）マイクがミュートになります。15秒経つとアダプターからビープ音が鳴り、圏外であることを示すため、30秒ごとに鳴り続けます。

アダプターをリモートアンテナに近づけると、自動的に再接続されて元の状態に戻り、ビープ音が止まります。そうしない場合はビープ音が繰り返され、15分ほどでアダプターの電源が切れます。

## バッテリー

テーブルトップマイクには、電圧1.2V、充電容量2,000mAhの標準的なニッケル水素（NiMH）充電式バッテリーが必要です。この規格に合うバッテリーの例として、Panasonic BK-3MCC、FUJITSU HR-3UTCなどがあります。

次のような条件でバッテリーを使用した場合は、Revolabsの保証が無効になる場合があります。

- 充電式NiMHバッテリーとは技術的に異なるバッテリーの使用
- 1.2Vの電圧要件と異なる電圧のバッテリーの使用
- 2,000mAhの充電容量要件と異なる容量のバッテリーの使用

ウェアラブルマイク、XLRアダプターおよびTA4アダプターでは、専用のリチウムイオン充電式バッテリーを使用します。これらのマイクでは、必ずRevolabs正規のバッテリーを使用してください。それ以外のバッテリーを使用した場合はRevolabsの保証が無効になります。

**注意：** バッテリーを誤って取り扱ったり、交換バッテリーの種類を間違えたりすると、バッテリーが爆発する危険性があります。本機器からバッテリーを外部から充電したりしないでください。バッテリーは焼却処分せず、製造元の指示や各地方自治体の条例に従って廃棄してください。

## リモートアンテナおよびベースステーションとワイヤレスマイクのペアリング

ペアリングすることで、リモートアンテナを介してEliteワイヤレスマイクとベースステーション間でリンクが形成され、そのリンクに電子的な一意のシリアルナンバーが付与されます。マイクとベースステーションがペアリング済みの場合は、マイクをチャージャーベースから外すたびに同じベースステーションと自動的に接続（「リンク」）しようとします。

**注：** 新しくシステムに追加するマイクは、それぞれ別々のチャンネルを使用してベースステーションとペアリングする必要があります。

**注：** ペアリング手順の最中は、マイクをリモートアンテナの圏内に入れておく必要があります。ペアリングはワイヤレスで行われ、ペアリング中のマイクはリモートアンテナ経由でベースステーションと通信します。

ペアリングされていないマイクは赤色/緑色のパターンでLEDが繰り返し点灯します。マイクとペアリングされていないベースステーションのチャンネルでは、チャンネルLEDとフロントパネルLCDが消灯します。また、Webインターフェースには「Not Paired」と表示されます。

マイクのLEDとベースステーションの前面にあるチャンネルLEDは、ペアリング中に赤色で連続点灯します。

1つのベースステーションチャンネルに、一度にペアリングできるマイクは1つだけです。どのベースステーションでも、複数のチャンネルで同時にペアリングすることはできません。ただし、複数のベースステーションとマイクで並行してペアリングが開始された場合、それらのマイクはペアリングモードのベースステーションのいずれともペアリングしてしまう可能性があります。

フロントパネルインターフェースとWebインターフェースはどちらもペアリングウィザードに対応し、複数マイクの連続ペアリングを管理できます。このため、複数のマイクをペアリングする新たなシステムのセットアップが簡単になります。

個々のマイクをベースステーションとリモートアンテナにペアリングする



1. マイクをOFFにします（LEDは消灯状態）。マイクがONの場合は、ミュート領域を長押しするか、またはLEDが赤色の連続点灯になるまでミュートボタンを10秒ほど押します。マイクのミュートLED動作が「Solid Green/Red」に設定されている場合、ミュート領域の長押し中、またはミュートボタンを押している間はLEDが赤色で連続点灯することに注意してください。ボタンは必ず10秒間押し続けます。その後、タッチ領域またはミュートボタンを離すとユニットがOFFになり、LEDも消灯します。ミュートボタンを長押ししてから5秒ほど経つとマイクからビーブ音が1回鳴ります。これはマイクの電源が切れたことを示すものではありません。
2. ミュート領域をタッチするかLEDが赤色の連続点灯になるまでミュートボタンを数秒長押ししてから、タッチ領域またはボタンを離し、マイクをペアリングモードにします。LEDはまず緑色になりますが、この時点ではタッチ領域から指を離さないでください。LEDが赤く点灯した時点でマイクはペアリングモードとなります。
3. 1分以内に、Eliteベースステーションの管理インターフェースのいずれかを使用して、ベースステーションの希望するチャンネルをペアリングモードにします。フロントパネルでマイクをペアリングモードにする方法については、26ページを参照してください。あるいは、Web UIの「Monitor」ページまたは「Microphone Audio」ページに移動し、マイクのペアリング先チャンネルで「Pair」ボタンを押します。フロントパネルでそのチャンネルのLEDが赤色で連続点灯します。赤色（ミュート）または緑色（ミュート解除）でフロントパネルとマイクのLEDの点滅が始まったらペアリングは完了です。
4. ペアリングに失敗した場合は、過去にペアリングされたことのないマイクはLEDが赤色/緑色で点滅を始めます。過去に同じベースステーションの別のチャンネルにペアリングされたマイクや、別のベースステーションにペアリングされたマイクは、そのチャンネルへ再度リンクしようとしています。ペアリングに失敗しても、過去のペアリング情報はマイクから削除されません。

## LEDパターン

下記の表に、各種の状態に対応するマイクまたはアダプターのミュートLEDの動作を示します。

機器の使用状態	マイクのLED	ベースステーションのチャンネルLED	意味
マイクがチャージャーベースにある	黄色連続点灯	Off	バッテリータイプの確認中
	赤色連続点灯	Off	充電中
	緑色連続点灯	Off	充電完了
	1秒ごとに2回赤色で点滅	1秒ごとに2回赤色で点滅	マイクのファームウェアのワイヤレスアップデート中
	Off	Off	バッテリーが非充電式
マイクがチャージャーベースから外されている	Off	Off	マイクがOFFになっているか、バッテリーがない
	1.5秒ごとに2回赤色で点滅	1.5秒ごとに2回赤色で点滅	マイクがペアリングされ、ミュート状態になっている
	1.5秒ごとに緑色で点滅	1.5秒ごとに緑色で点滅	マイクがペアリングされ、ミュート解除状態
	1.5秒ごとに1回赤色で点滅	1.5秒ごとに1回赤色で点滅	マイクはペアリングされているが、システムはミュート状態になっている（テーブルトップミュートなど）
	赤色連続点灯	赤色連続点灯	ペアリングモードもしくは電源切断の確認中
		ゆっくり交互に緑色/赤色で点灯	ペアリング失敗

機器の使用状態	マイクのLED	ベースステーションのチャンネルLED	意味
	ゆっくり交互に緑色/赤色で点灯	Off	マイクがペアリングされていない
	赤色/黄色/緑色/黄色の交互点灯	Off	接続を探しているか、もしくは圏外15分ほどリンクを探し、再接続を試みた後、自動的にOFFになる
	1秒ごとに2回赤色で点滅	1秒ごとに2回赤色で点滅	マイクのファームウェアのワイヤレスアップデート中
	赤色で5回の高速点滅	Off	ユニットの故障。販売元へ連絡してください。
	10秒ごとに1回黄色で点滅		マイクがスリープモード

充電ステータスLEDには、マイクバッテリーの現在の充電レベルに関する追加情報が表示されます。下記に、チャージャーベースから外されて電源がONになっているマイクに関する情報を示します。

充電LED	バッテリー残量
Off	充電残量20%以上
黄色で点滅	充電残量10%以上20%未満（ウェアラブルマイク、XLRアダプターおよびTA4アダプターでは残り通話時間1～2時間、テーブルトップマイクでは2～4時間）
赤色で点滅	充電残量10%未満（ウェアラブルマイク、XLRアダプターおよびTA4アダプターでは残り通話時間最大1時間、テーブルトップマイクでは最大2時間）

## ミュートグループ

Executive Eliteには、マイクグループを定義する非常にフレキシブルな方法が採用されています。マイクグループの主な目的は、マイク間で共通のミュート動作を定義することです（そのため、「ミュートグループ」という名前が付いています）。Web UIを使用すると、グループ内での共通のミュート動作以外に、1つのグループ内のマイクのモニタリングや管理もできます。また、ミュートグループを作成したり、別のグループにマイクを割り当てたりすることもできます。同一クラスターに所属する個々のベースステーションは、ミュートグループ定義を互いに共有します。クラスターやグループを作成する方法、およびグループにマイクを割り当てる方法については、本書のユーザーインターフェースに関する説明を参照してください。

各Executive Eliteベースステーション、つまりすべてのベースステーションクラスターには、そのクラスター内に最大10個のミュートグループを設定できます。お使いの環境で不要になったミュートグループは削除してください。

Executive Eliteはミュートグループ内のマイクについて複数のミュートタイプをサポートしていることから、ユーザーは自分の使い方に最も合うミュート動作を選択できます。

### Unmute at Startup（起動時にミュート解除）

「Unmute at Startup」設定は、電源投入時、再起動時、またはチャージャーベースから取り外すときのマイクのミュート状態を定義します。このモードを選択した場合は、上記の状況になるとグループ内のすべてのマイクのミュートが解除されます。このモードを選択しなかった場合、グループ内のすべてのマイクは起動時にミュート状態となります。

## Individual Mute (個別ミュート)

ミュートグループを「Individual Mute」に設定すると、個々のマイクのミュート動作を制御できるようになります。あるマイクのミュート領域にタッチすると、そのマイクの状態はミュートとミュート解除で切り替わりますが、グループ内の他のマイクの状態は変化しません。

## TableTop mute (テーブルトップミュート)

「TableTop Mute」オプションを使用すると、ミュート領域にタッチしたときにすべてのテーブルトップマイク（指向性、無指向性、グースネック）でグループ内のすべてのマイクをミュートできます。別のテーブルトップマイクでミュート領域をタッチすると、すべてのテーブルトップマイクのミュートが解除され、すべてのウェアラブルマイク、TA4アダプターおよびXLRアダプターが元の状態に戻ります。このとき、ウェアラブルマイク、XLRアダプターおよびTA4アダプターは「Individual Mute」設定で説明したとおり個別にミュートできます。

## Push to Talk (プッシュトーク)

「Push to Talk」に設定されたグループでは、ミュート領域にタッチするまではすべてのマイクがミュートされています。この領域にタッチしている間はマイクのミュートが解除された状態になります。各マイクで制御するのはそのマイク自身のミュート動作に限られ、あるマイクのミュート領域にタッチしてもグループ内の他のマイクには一切影響しません。

マイクをミュート解除したままの状態とするにはプッシュトークグループ内のマイクのタッチ領域を押し続ける必要があるため、タッチ領域を長押ししてもマイクはOFFになりません。マイクをOFFにするには、かわりにWeb UI、フロントパネルまたはルームコントロールAPIを使用するか、あるいはマイクをチャージャーベースに戻す必要があります。

## Chairman Microphone (議長用マイク)

各マイクグループの中で、マイクを1本だけ議長用マイクに指定できます。別のマイクが議長用に選択されると、最初のマイクは議長権限を失い、新しいマイクが議長権限を取得します。グループの議長用マイクの設定を「議長用以外」に変更すると、そのグループのミュートモードは自動的に「Individual Mute」に変更され、「Unmute at Startup」が有効化されます。ミュートタイプおよび「Unmute at startup」の設定は、議長用マイクの設定後でも変更できます。

議長用マイクのミュート領域を押すと、グループ内のすべてのマイクの状態が3通りに切り替わります。

1つめの状態では、議長用マイクのミュートは解除したまま、グループ内の他のマイクをグループのミュートタイプ（「Individual Mute」、「TableTop Mute」または「Push to Talk」）に従ってすべて操作できます。議長がミュート領域に一度タッチすると、議長用マイクを除くグループ内のすべてのマイクがミュート状態となり、グループの他のマイクではこのミュートを解除できません。議長用マイクのミュート領域に再度タッチすると、議長用マイクを含めたすべてのマイクがミュートされます。この場合、グループの他のマイクのミュートを解除することはできません。3度めに議長用マイクのミュート領域をタッチすると、グループが再び最初の状態に戻ります。

Web UIでは、上記の3通りのミュート状態を「Monitor」ページから個別に有効化できます。

## Mute lock (ミュートロック)

「Mute Lock」を使用すると、各マイクのミュート領域を個別にロックできます。ミュートロックを有効にするとそのマイクのタッチ領域が無効になり、グループの他のマイクまたはWeb UI経由でしかマイクのミュート状態を変更できなくなります。

マイクのミュートロックを設定するには、Web UIの「Monitor」ページでミュートアイコンの隣に表示された「unlocked」アイコンをクリックします。するとアイコンが鍵のかかった錠前に変化します。アイコンを再度クリックすると、マイクはロックが解除された状態に戻ります。

## GPLライセンスのソフトウェア

下記の表に、Executive Elite製品に含まれるオープンソースソフトウェアと、そのソフトウェアパッケージを使用する際のそれぞれのライセンスのリストを示します。

各ソフトウェアのライセンスおよびライセンステンプレートについては、下記のWebアドレスを参照してください（2014年1月時点）。

ライセンスタイプ	Webアドレス
GNU GPLv1	<a href="https://www.gnu.org/licenses/gpl-1.0.html">https://www.gnu.org/licenses/gpl-1.0.html</a>
GNU GPLv2	<a href="http://www.gnu.org/licenses/gpl-2.0.html">http://www.gnu.org/licenses/gpl-2.0.html</a>
GNU LGPLv2.1	<a href="http://www.gnu.org/licenses/lgpl-2.1.html">http://www.gnu.org/licenses/lgpl-2.1.html</a>
GNU GPLv3	<a href="http://www.gnu.org/licenses/gpl.html">http://www.gnu.org/licenses/gpl.html</a>
Apache	<a href="http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html">http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html</a>
Oracle	<a href="http://www.oracle.com/us/corporate/contracts/license-service-agreement/index.html">http://www.oracle.com/us/corporate/contracts/license-service-agreement/index.html</a>
Postfix/IBM Public	<a href="http://opensource.org/licenses/IPL-1.0">http://opensource.org/licenses/IPL-1.0</a>
MIT	<a href="http://opensource.org/licenses/MIT">http://opensource.org/licenses/MIT</a>
BSD	<a href="http://opensource.org/licenses/BSD-2-Clause">http://opensource.org/licenses/BSD-2-Clause</a>
BSD（2条項）	<a href="http://opensource.org/licenses/BSD-2-Clause">http://opensource.org/licenses/BSD-2-Clause</a>
BSD（3条項）	<a href="http://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause">http://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause</a>
XMOSライセンス	<a href="http://www.xmos.com">http://www.xmos.com</a>
フリーソフトウェアライセンス	<a href="http://www.astro.caltech.edu/~mcs/tecla/LICENSE.TERMS">http://www.astro.caltech.edu/~mcs/tecla/LICENSE.TERMS</a>

Executive Elite製品で使用している具体的なオープンソースソフトウェアのパッケージは次のとおりです。

名前	バージョン	ライセンスタイプ
OpenFireサーバー	3.8.2	GNU GPLv2
OpenFireユーザーサービス	1.3.3	GNU GPLv2
OpenFireプレゼンスサービス	1.5.1	GNU GPLv2
Apache	2.2.22	Apache
MySQL	5.5.29	Oracle
Postfix	2.10	Postfix/IBM Public
PHP	5	BSD
stophe.js	1.0.2	MIT
psp_linux	12.0	GNU GPLv2
psp_omap	3.20.00.14	GNU GPLv2
mtd-utils	1.0	GNU GPLv1
Udev	055	GNU GPLv2
Busybox	1.00	GNU GPLv2
Buildroot	2013.08.1	GNU GPLv2
Glibc	2.3.3	GNU LGPLv2.1
XMOS AVB	5.2	XMOSライセンス
USB-Audio-2.0-XS1-L2-Software	5.3	XMOSライセンス
Opus (マイク)	0.9.5	BSD (2条項)
Opus (ベースステーション)	1.0.1	BSD (3条項)
Mini-gmp	5.1.0	GNU LGPLv3
JamVM	1.5.4	GNU GPLv2
GNU Classpath	0.98	GNU GPLv3
Qt	4.6.3	GNU LGPLv2.1
Teclaライブラリ	1.6.2	フリーソフトウェアライセンス
C CGIライブラリ	1.1	GNU GPLv2
jQuery	1.10.2	MIT
Strophe.js	1.0.2	MIT
cURL	7.33.0	MIT
OpenLLDP	0.4alpha	GNU GPLv2

## トラブルシューティング

### フロントパネルUSB経由のWeb UIアクセス

ネットワークの設定が間違っていると、Executive Eliteシステムがネットワークから切断されるため、LAN経由でWeb UIにアクセスできなくなります。ただし、Web UIにはEliteベースステーションのフロントパネルにあるUSBポートからアクセスできます。マイクロUSBケーブルを使用して、使用したいコンピューターをExecutive EliteベースステーションのフロントUSBコネクタに接続してください。初めて接続するときは、必要に応じてドライバーソフトウェアをコンピューターにインストールします。ドライバーがインストールされて有効になったら、USB経由のWeb接続用の固定IPアドレスをフロントパネルLCDのポップアップで指定します。Webブラウザを開いてIPアドレスを入力したら、Web UIにログインします。これで、Executive EliteベースステーションをIPネットワークに登録できるようにネットワークの設定を修正できます。

ドライバーソフトウェアのインストールに失敗した場合、「IP Address」ポップアップが表示されない場合、または「USB IP Address」Web UIがロードされない場合は、USB接続に失敗している可能性があります。ケーブル配線を調整するか、新しいケーブルで接続しなおしてください。

### アンテナアイコンの点滅

フロントパネルLCDのアンテナアイコンが点滅している場合、Eliteベースステーションとアンテナで通信が行われていません。ファームウェアの更新時は、ベースステーションのファームウェア更新後にアンテナのファームウェアが更新されるため、この状態が10分以上続く場合があります。

前回の更新から時間が経過している場合は、Eliteベースステーションの背面やリモートアンテナでアンテナケーブルが接続状態を確認します。

ケーブルの接続状態が正しい場合は、Web UIの「Administration」ページからリモートアンテナを再起動します。

再起動コマンドの発行後、2分経ってもアンテナが再リンクしない場合はベースステーションを再起動します。

### テクニカルサポート

技術的な問題が発生している場合、あるいはRevolabs製品の操作、設定またはトラブルシューティングに関して不明な点がある場合は、Revolabsインフォメーションセンターまでお問い合わせください。

## 技術仕様

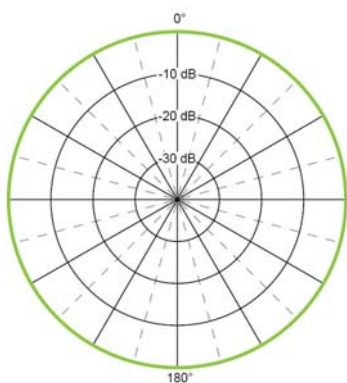
### 製品寸法

コンポーネント	サブタイプ/サブコンポーネント	寸法(W x H x D)	質量(バッテリー含む)
ベースステーション		48.0 x 4.4 x 26.7cm	2.95kg
	モノグラフィックディスプレイ	216 x 64ピクセル 71 x 21cm	N/A
リモートアンテナ		17.3 x 5.3 x 17.3cm	450g
8マイク対応チャージャーベース		19.8 x 5.0 x 25.4cm	450g
4マイク対応チャージャーベース		19.8 x 5.0 x 12.7cm	390g
マイク	無指向性テーブルトップ	7.9 x 2.9 x 7.9cm	130g
	指向性テーブルトップ	7.9 x 4.4 x 7.4cm	135g
	6インチグースネック (約15cm)	7.9 x 19.0 x 9.6cm (グースネック部を含む)	192g
	12インチグースネック (約30cm)	7.9 x 33.2 x 9.6cm (グースネック部を含む)	219g
	ウェアラブル	3.2 x 7.8 x 2.5cm	46g
	XLRアダプター	3.2 x 11.0 x 2.5cm	37g
	TA4 (ミニXLR) アダプター	3.2 x 10.1 x 2.8cm	55g

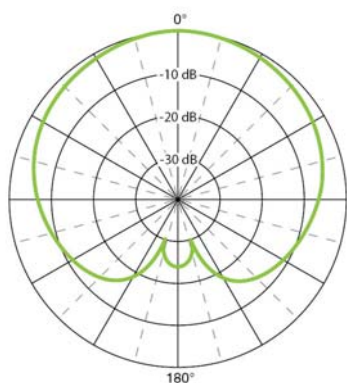


## マイクの極性パターン

Elite無指向性テーブルトップマイク「Elite MIC-OM」:



Elite指向性ワイヤレステーブルトップマイク「Elite MIC-DR」:



# 索引

AVB音声 .....	10, 16	ミュートボタン .....	60, 68, 70
XLRマイクワイヤレスアダプター .....	70	ワイヤレスバウンダリマイク.....	62, 64
フェライト .....	14	入力コネクター .....	15
ペアリング .....	72	同期.....	16
マイク.....	60	AVB同期 .....	17
LED表示.....	60, 68, 70	同期バス .....	17
イヤホンジャック .....	60, 68, 70	同期方法 .....	16
チャージングポート.....	60, 68, 70	極性パターン.....	81
ポケットクリップ .....	60, 68, 70	音量を調整する .....	61

## ◆アフターサービス

お客様ご相談窓口:

Revolabsインフォメーションセンター(電話受付 = 祝祭日を除く月～金/11:00～ 17 :00)

Tel: 0570-020-808 (ナビダイヤル、全国共通番号)

上記番号でつながらない場合は03-5651-1838 発信者番号を通知する設定にしてお掛けください。

オンラインサポート: <http://jp.yamaha.com/support/>

修理に関するお問合せ:

ヤマハ修理後相談センター(電話受付 = 祝祭日を除く月～金/10:00～ 17 :00)

Tel: 0570-012-808 (ナビダイヤル、全国共通番号)

上記番号でつながらない場合は03-5651-1838 発信者番号を通知する設定にしてお掛けください。

## ◆販売元

(株) ヤマハミュージックジャパン PA営業部

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41-12KDX箱崎ビル Tel:03-5652-3850

\*名称、住所、電話番号、営業時間、URLなどは変更になる場合があります。

Revolabs Executive Elite取扱説明書  
Aug 2021 (Rev 2.2.7)